

島の頂 山歩道

さんぽみち

〔 28 座から見渡す天草の絶景 〕

目次

	天草の山28座位置図	4
1	柴尾山（しばおやま）	6
2	千巖山（せんがんざん）	8
3	太郎丸嶽（たろうまるだけ）	10
4	次郎丸嶽（じろうまるだけ）	10
5	鋸嶽（のこだけ）	14
6	白嶽（しらたけ）	16
7	念珠岳（ねんじゆだけ）	18
8	龍ヶ岳（りゆうがたけ）	20
9	烏峠（からすとうげ）	22
10	倉岳（くらたけ）	24
11	老嶽（おいだけ）	26
12	十万山（じゅうまんやま）	28
13	染岳（そめだけ）	30
14	帽子岳（ぼうしだけ）	32
15	行人岳（ぎょうにんだけ）	34
		35

16	矢筈岳 (やはすだけ)	36	36
17	天 竺 (てんじく)	38	39
18	天神山 (てんじんやま)	40	41
19	角 山 (かどやま)	42	43
20	行人岳 (普賢岳) (ぎょうにんだけ・ふげんだけ)	44	45
21	頭 岳 (がしらだけ)	46	47
22	竜洞山 (りゅうとうざん)	48	49
23	産 島 (うぶしま)	50	51
24	荒尾岳 (あらおだけ)	52	53
25	古江岳 (ふるえだけ)	54	55
26	六郎次山 (ろくろうじやま)	56	57
27	遠見岳 (とおみだけ)	58	59
28	権現山 (ごんげんやま)	60	61
	あとがき	62	62
	島の頂山歩道執筆者 (担当表)	63	63



1. 柴尾山(しばおやま)
2. 千巖山(せんがんざん)
3. 太郎丸嶽(たろうまるだけ)
4. 次郎丸嶽(じろうまるだけ)
5. 鋸 嶽(のこだけ)
6. 白 嶽(しらだけ)
7. 念珠岳(ねんじゅだけ)
8. 龍ヶ岳(りゅうがたけ)
9. 烏 峠(からすとうげ)
10. 倉 岳(くらたけ)
11. 老 嶽(おいだけ)

天草の山28座 位置図

鬼池港
口之津港

12. 十万山(じゅうまんやま)
13. 染 岳(そめだけ)
14. 帽子岳(ぼうしだけ)
15. 行人岳(ぎょうにんだけ)
16. 矢筈岳(やはずだけ)
17. 天 竺(てんじく)
18. 天神山(てんじんやま)
19. 角 山(かどやま)
20. 行人岳(普賢岳)
(ぎょうにんだけ・ふげんだけ)
21. 頭 岳(がしらだけ)
22. 竜洞山(りゅうとうざん)
23. 産 島(うぶしま)
24. 荒尾岳(あらおだけ)
25. 古江岳(ふるえだけ)
26. 六郎次山(ろくろろうじやま)
27. 遠見岳(とおみだけ)
28. 権現山(ごんげんやま)



長島町



頂上展望台



草に覆われた頂上ベンチ

草に覆われた頂上ベンチ
その志を叶えるため、数々の障害を乗り越え、きつと建てられ

れており歩きやすいです。ただ、時期が時期だけにクモの巣がコースの所々に張られています。クモには悪いですが落ちている木枝でクモの巣を払いながら進みます。またこれも時期でしょうか、私のフェロモンでしょうか、蚊のブーンという音がまとわりつき耳障りです。ただ、山道は木に囲まれこの時期にしては涼しいです。
・20分ぐらい歩くと、登山道の周りが開けて開放的になってきます。休憩所として最適な空間です。蚊もここまでくるといなくなつたようで少し快適です。
10:43 ・山道の先に光が差し込んでいますが30分で着きました。その光の先に足を踏み入れようとした矢先、でかいクモが目の前に現れ、ヒャー、好事魔多しです。油断して木枝で払うのを忘れてまし

た。
・頂上には、展望台がありました。情報どおりの立派なものです。しかし・・・展望台まで行くルートがものすごい草で覆われています。時期が時期だけに・・・でしょうか。思い切つてその草の中に足を踏み入ると、沢山のちっちゃな蝶が舞い上がります。種類は分かりませんが、蛾じゃないと思います。あまりにも数が多いので少し気持ち悪いです。頂上の標識もまたベンチも設置してありますが、草に埋もれています。
・慎重に歩きましたので1分ぐらいで展望台にたどりつきました。高さは20メートルはあるでしょうか。鉄製の頑丈なつくりです。らせん状に伸びた階段を登りながらも絶景がみえます。一番てつぺんに登り上がりました。天気もよく、360度の景色は最高。海と空の美しいブルーと天草五橋、小島、雲仙などいい眺めです。しかし目線を下にして落とすと生い茂った草が・・・これは季節モノで、しようがないですね。それにしても、この立派な展望台、この山にちよつとフィットしないなあと一見感じますが、この景色をどうしても見たくてしようがなくて、その志を叶えるため、数々の障

たんだろうなあと思うと、その先人のロマンに少し酔うことができます。
・頂上の先にも展望所(象の頭)があるらしいのですが、この大いなる草をかき分けて進むにはこの時期勇気がいります。今回はあつさりあきらめて、季節を選んでまた登ることにします。ゴメンナサイ・・・
11:13 下山し登山口へ
5 登山後
・白海岸に足を伸ばし、天草四郎の伝説がある吹割岩に行きました。なんと島原の原城につながっている洞窟があるという伝説の岩です。ただ、その洞窟があるらしい箇所は現在落石の危険があり立入り禁止になっていきます。ただ、神秘的な雰囲気は残つてますよ。
・近くに〇〇水という、実に縁起のいい名前の水の看板をみつけました。立ち寄ってみると、そこで身体に良い水を精製されており、全国の病院等に届けていらつしやるとのこと。実は女房と同じ名前の水です。このことを打ち明けると、なんとその水を記念にいただきました。
6 登山後の感想
この山はファミリー向けです。または軽くトレッキング感覚でもいいと思います。ただし、季節を選んで、できれば暑い季節以外がいいと思います。次は別の季節に登つてみます。

散歩感覚で楽々頂上征服!!

2 千巖山 (せんがんざん)

1 登山口への案内

国道324号線、松島合津港付近に大きな案内板が出ています。天草市方面か



千巖山全景 (天草青年の家から撮影)

ら左折して千巖山(天草青年の家)へ向かって10分ほど車で登ると、立派な千巖山駐車場があります。

2 名前の由来

駐車場に名前の由来が記された看板があります。昔は手酌山(てじやくやま)と呼ばれていたそうで、天草島原の乱勃発の際、天草四郎がこの山頂で出陣の祝宴をし、手杓子で酒を酌み交わしたという伝説がその由来です。その後、昭和8年頃国立公園生みの親といわれる田村剛博士がこの山のアマリの奇岩怪石に感嘆し、千巖山と命名したとのことです。

3 登山前の情報

登山前に調べた情報では、名前の由来のとおり奇岩怪石が多く、岩の間には古松(姫小松)や三つ葉つつじが群生し、また、この一帯に桜が多く植えられており、シーズンには毎年さくらウォークが開催されるとのこと。

昭和10年に名勝に指定。昭和31年には国立公園に指定され、正に天草を代表す

DATA

上天草市松島町
標高162m
歩行時間：30分(千巖山駐車場から往復)



る風光明媚な山なのです。さらには、韓国版人気トレンギングの九州版、「九州オルレ」のコースにも指定され、海外からも注目を浴びています。

4 登山

9月7日

13:51 駐車場を出発

駐車場にはコースの案内看板があります。中央突破コース・右周りコースがあります。が、デイト中らしき若いカップルと登山口で会いまし破コースをイチャ



案内看板

イチャ登りそうですので、私は右回りコースにしました。

・歩いてすぐ、子ども広場があり、となりのトトロ口がニヤーと笑っています。遊具も充実した広場ですが、この日は子ども姿はありませんでした。

13:54 休憩所らしきスペースに到着。歩いて3分、全く疲れていませんが、せっかくだので一応一休みします。その後のルートは軽い上りですが、広い階段状になっており実に歩きやすく整備がなされています。

13:59 展望所に到着。立派な展望所が設置されています。展望所からは天草五橋や島々が鮮やかに見渡せ、最高の景観スポットです。数台の望遠鏡設備の跡らしきものがあり、昔は観光名所として賑わっていた様子が伺えます。駐車場から歩いて10分もかかりませんので、バーベ



広い展望所



千巖山頂上



子ども広場の象徴（トトロ口）

ありま
す。また
岩の隙間
から可愛
らしい小
松がたた
ずんでい
ます。
「姫小

キューセットやビールサーバーなどの持ち込みも体力的には可能です。

・展望所から頂上へ向かいます。途中、階段状の横道がいくつもあります。分岐ルートがいくつもあり、気分によってルートを変えられそうです。2週間前にこの山を訪れたときは、地元の子どもたちが戦争ごっこをして遊んでいました。頂上に通じる階段がいくつもあり、それが迷路のようになってるので、このような遊びが楽しめるようです。

14:05 頂上。ゆっくり登って15分の楽々頂上征服です。ここにも展望所があり、周りの山々を表示したプレートがあります。これから登る予定の太郎丸・次郎丸嶽も兄弟仲良くはつきり見えます。

・中央突破コースを下山します。コースは歩きやすい階段状です。事前情報どおり登山道の周囲には大きな岩がたくさん

「松」でしょうか。仮に姫小松でなくても

「姫小松」の名が似合っています。

14:21 登山口に到着。登山口には大きなトイレもあり、多い日も安心。まさに至れり尽くせりです。

5 登山後

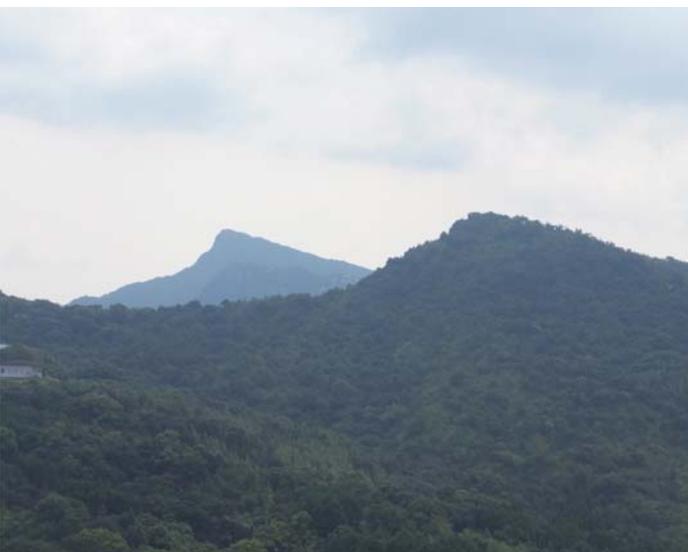
・天草青年の家に立ち寄りしました。ここからは千巖山の姿がよく見えます。パッチリ写真に取めました。

・カムビーチと呼ばれる西目海水浴場にも立ち寄りしました。静かな海水浴場でプライベートビーチの雰囲気、正に穴場です。また、海の家があり、かき氷や軽食などが楽しめるようです。

6 登山後の感想

・子ども広場があり、登山も散歩程度の感覚でできるため子どもから高齢者まで親しめる山です。また、体力自慢は、トレーニング目的で、色々なルートから、何度も頂上を征服してみるのはいかがでしょうか。

・オルレのコースになっており、青と赤の標識が所々にあります。思い切ったこのオルレコース（知十観音↓知十海岸↓山道入口↓千元森嶽↓天草青年の家↓千巖山↓巨石↓岬亭↓龍の足湯。11.1km（4〜5時間）にチャレンジしてみたい!!



太郎丸・次郎丸嶽全景（手前が太郎丸嶽）千巖山頂上から撮影

③知十コースは、同じく米の山ICで降り、国道324号線を熊本方面に走るとすぐに知十橋があります。その信号（三差路）を右折

は、①今泉コース、②小鳥越コース、③知十コースです。①今泉コースは、天草市方面から松島有明道路を走り、米の山ICを降りた後しばらくまっすぐに国道324号線を熊本方面に向かうと、今泉三差路に次郎丸嶽の大きな看板があり、そこを右折するとすぐに市営の無料駐車場（今泉駐車場）があります。②小鳥越コースは、今泉駐車場から県道34号線を内野河内方面に車で5分ほど走ると左側に白嶽登山口があり、そのすぐ先の右側に次郎丸小鳥越登山口の看板があります。公の駐車場はありませんが、道の脇に駐車できます（今泉駐車場から歩くこともできます）。



登山ルート案内板

太郎丸・次郎丸嶽と呼ばれ、弟より低い山になった。その感動的な兄弟愛の逸話から日本を代表する兄弟の名前として、太郎丸・次郎丸嶽と呼ばれ

するとまもなく天草地域森林組合があり、そこに次郎丸岳無料駐車場の看板があります。2 名前の由来 今泉駐車場に名前の由来らしきエピソードが記された看板があります。美しい夕日の風景を見られない弟のために場所を入れ替わろうとした兄。しかし、動き出したと同時に頂上は崩

1 登山口駐車場への案内
太郎丸・次郎丸嶽へはいくつかの登山ルートがあります。今回ご案内するの

4 3 次郎丸嶽 太郎丸嶽

（たろうまるだけ）
（じろうまるだけ）

色々な登山ルートが楽しめるアドベンチャーワンダーマウンテン

DATA

上天草市松島町
標高281m（太郎丸嶽）、397m（次郎丸嶽）
歩行時間：2時間30分（今泉登山口から往復）



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

るようになったようです。また、次郎丸嶽の頂上付近には弥勒菩薩（みろくぼさつ）が祀っており、次郎丸は弥勒山（みろくやま）とも呼ばれているそうです。

3 登山前の情報

兄弟愛が評価され、九州百名山に選ばれています（これは榮譽です）。今泉登山口からのルートには名水「長寿の湧水」、兄派か弟派かの選択を迫られる「太郎分かれ」、弟を選んだら、ジグザグ急坂の「稲妻返し」、大岩をロープで登る「次郎落し」、そして頂上近くには大岩「見晴岩」「ライオン岩」などが名付けたかはわかりませんが、アドベンチャーワンダーマウンテンさながらのネーミングの数々です。

4 登山

○9月7日（①今泉コース・ハードスケジュールのため登山開始が夕方近くになりました）

15:35 知十登山口からの登山を目指し、住吉神社から登山ルートに入ります。標識を頼りに進みましたが、集落を過ぎ山道に入ると、なんとやぶだらけです。時間帯を考えてもこのルートでの単独登山は危険と判断し、急ぎよ今泉登山口からの登山に切り替えます。

15:51 今泉登山口に車で到着。市営駐車場が整備されています。案内板も充実



長寿の湧水

しています。登山を開始すると、所々に標識があり、その標識を頼りに進むと集落に入ります。途中、新登山道の標識と自販機ありの標識があります。自販機にも興味がありましたので今回はそちらのコースに行ってみました。自販機らしきものはどこにも見当たりません。

16:12 新登山道と旧登山道の分岐点にきました。新登山道は少し遠回りになるようですが、傾斜は旧道よりも緩やかなようです。この分岐点には天然の登山用杖が無料貸出ししてあります。2本しか置いてありませんでしたが、へび対策に1本お借りします。そこから5分ほどで「長寿の湧水」が早くもありました。細く長くという意味なのか、長寿水がチョ

ロチョロと絶え間なく流れていま

す。16:25 太郎丸分かれに到着。ここが兄派か弟派かの分岐点です。両方登るには時間が厳しいかなあ

と迷いましたが、とりあえずお兄さんにご挨拶することにします。途中、ルートがヘゴ（シダ系草）に覆われ、地面がみえません。蛇対策として、借りてきた杖で座頭市風に地面をたたきながら進みます。しばらく行くと、でっかい岩がそびえたつピークがありました。頂上かと思いつつその岩におそろおそろよじ登りましたがどこにも頂上の標識はありません。もう一つ奥にみえるピークが本当の頂上ようです。

16:44 太郎丸嶽山頂に到着。弟の次郎丸嶽が良く見えます。高さは太郎丸嶽が100m以上低いようですが、高さはそう変わらないように見えます。ここまです。岩が多く、また結構登りも急な箇所がありお兄さんの方は少しノーマークでしたが侮ってはいけません。

17:02 再び太郎丸分かれに到着。時間も時間ですが、この際勢いで弟の次郎丸嶽を目指します。次郎丸嶽はお兄ちゃんに比べ草も払われ、ある程度整っています。やっぱり弟は甘やかされるんですよか。

・次郎丸嶽を目指すジグザグ道「稲妻返し」は結構手ごわく水分を補給しながら進みます。しばらく進むと、雨宿りに適した形の大きな岩があります。勝手に「テント岩」と名付けます。

・知十方面からの登山道との分岐点に着きました。最初に登ろうとした知十ルートはここに出るようです。その分岐点のすぐそばにロープが垂らされているのでつかい岩があります。これが「次郎落とし」「見晴岩」でしょうか。そのロープをつたい、落とされたいよう岩をよじ登ります。事前情報がなければ一見これが頂上だと勘違いしそうなダイナミックさですが、実はもう少し奥に頂上があります。こんなところはお兄さんそっくりです。

17:30 弥勒菩薩（みろくぼさつ）が祀ってありました。過ぎると山頂到着です。山頂からはいまにも吠えそうな「ライオン岩」が見えます。頂上1帯は断崖絶壁で、当たり前ですが柵もなく足がすくみまします。また、次郎丸嶽山頂からみると兄の太郎丸嶽は随分低く見えます。兄の愛で夕日もよく見えそうです。岩で覆われた頂上1帯ですが、この岩が少しでも動いたらなどに変な想像をすると、一層スリルが味わえます。

・時間が遅くなり、下山を急ぎます。下りは、傾斜が急で滑りやすい箇所がありますが、適宜ロープがかけられており安心です。ですが、登山道が薄暗くなり少し不安になってきます。やっぱり登山は早めの時間帯がお勧めです。帰りはおみ

やげに「長寿の湧水」をペットボトルに満タンにしました。

18:11 新道・旧道の分岐点に到着。杖を元あつた場所に返し、今度は旧道を通って登山口に向かいます。新道よりも少し傾斜が急です。田んぼ道に差し掛かると近くに住む8歳のおぼあちゃんに会いました。こんな時間に山から人が下りてくると猪より恐ろしいといわれました。驚かせてごめんなさい…。

18:20 登山口（駐車場）到着

○9月16日(2)小鳥越コース(上り)、
③知十コース(下り)・自動車2台3名
で縦走)

・別の登山ルートをご紹介するため、特別に2週続けて次郎丸嶽に登りました。車1台を森林組合近くの住吉神社に駐車し、車1台に乗り合わせ小鳥越登山口に向かいます。
10:05 小



小鳥越登山口

鳥越登山口。県道34号線を走ると立派な看板があります。登山口からの最初のルートが分かりにくいので注意が必要です。右に登り上がると登山道です。

・登山ルートは、少し分かりにくいですが、赤・青・黄のテープやトラロープが設置してあり、それを目印にすれば大丈夫です。ルートは小さなアップダウンの繰り返しで、登ることにばかり意識が強すぎるとルートを間違えやすいので、テープ等の目印をしつかりたどることが大切です。

10:34 中間地点の標識がありました。0・8キロ地点です。ここまで30分できましたので、頂上まで1時間でしょう。

・途中、上を見上げると、すぐそこに頂上らしきものがはつきり見えます。ただルートが今泉ルートよりも緩やかに回りながら頂上に向かっていくような感じになかなか頂上には着きません。また木々に囲まれ木陰が多く日焼けを避けたい方にはお勧めのコースです。

11:22 頂上到着。中間地点から思ったよりも時間がかかりましたが、今泉コースのような大岩越えなどのクライマックスもなく、あっさり頂上という感じでした。頂上では知り合いのご夫婦と男性2人組とご一緒しました。この日は台風18



ライオン岩
(鼻先にビビリながらしがみつく)

た。

12:38 「住吉神社方面」、
「後山方面」の分岐地点に到着。後山登山口へのルートはみんな未体験だったためそちらを選択します。

・このルートは、整備はされておらず、途中鉄製の立派な階段も設置してありますが、草に覆われ、地表がみえず足元には注意が必要です。特に夏の時期は、マムシやスズメバチが危険です。

・知十ルートは、下界の景色、山肌(岩肌)の景色を眺めながら進むことができます。また麓に近づくとき沢水の音が聞こえ始めます。このルートの麓は沢沿いになります。

13:40 住吉神社到着 5 登山後の感想

・今泉ルートはネーミングが付いた名所がいくつもあり、太郎丸嶽にもアプローチしやすいので一番お勧めのコースです。ほとんどのガイドブックにもこのコースが紹介されています。今回は2時間半弱で登りましたが、昼食タイムなどを考えるともう少し時間の余裕が必要でです。また、新登山道は春には紫のツツジがきれいだ、帰りに会ったおばあちゃんから聞きました。また、この辺りにも猪がよく出るそうで、おみやげに汲んだ長寿の湧水は飲用には厳しいかもしれせん。

・小鳥越ルートは、小さなアップダウンが繰り返しますが、比較的緩やかで登りやすいです。白嶽登山等とミックスさせるとよりダイナミックな登山に発展できそうです。

・知十ルートは、駐車場は森林組合に立派な看板がありますので分かりやすいですが、県道290号線からの登山口の入り口が分かりにくく注意が必要です。住吉神社登山口は、住吉神社から民家方面に細い路地を上っていくと小さな標識があります。後山登山口は、後山停留所から水路沿いの舗装道に入り込み、舗装道が途切れたその先に小さな標識があります。

・次郎丸嶽・太郎丸嶽は、このように様々な登山ルートがあり、どのコースも所要時間はあまり変わりませんが、それぞれに味があります。今泉コース以外は、草に覆われ少し荒れた印象がありましたが、道は使うほどに洗練されてきます。せっかく先人が苦労して作り上げたルートを絶やさないうえにも、色々なルートから太郎丸・次郎丸登山を楽しみましょう！

号の影響で風が強く、頂上はいつもにも増してスリルがあります。今回は本渡岳友会創立50周年の記念として、「ライオン岩の鼻先に立つ」という野望をもつていきましたが、強風のため、「しがみつく」ことが精一杯で、ちよつと情けない野望達成となりました。

・見晴岩で昼食。強風が晴天と相まって丁度いい体感温度となり、快適なランチタイムとなりました。

12:10 知十方面に下山開始。見晴山(大岩)を降りるとすぐに「知十方面」の標識があります。

・登山道はヘゴ(シダ系)に覆われ、地表が見えない箇所がいくつもあります。我々はそこを「ヘゴの海」と名付けまし



白嶽から見た鋸岳（手前の稜線）

と東屋のある山頂へたどり着く。海沿いの観海アルプスコースの山々とは違い、



湿地帯からの分岐

と一緒に登ることにした。白嶽森林公園キャンプ場に車を止め、まずは白嶽を巡り、湿地帯の方へ下る。湿地帯の途中に鋸岳への分岐の標識があり、そこから10分ほど登り続けると、鋸岳と書かれた標識

と同じくらいの高さのピークが2つ続き、遠くから見ると、鋸の歯のようにギザギザした形をしている。白嶽方面からも、次郎丸嶽方面からも登ることができるが、今回は、白嶽

海はほとんど見えない。ただ、眺望はよく、白嶽や中岳の稜線や、次郎丸嶽など、天草上島の山々を眺めることができる。そこから稜線に沿って下り、次のピークへとアップダウンを繰り返しながら鋸の歯を渡る。道は整備されており歩きやすい。途中、キャンプ場の建物や、車を止めた駐車場を見下ろすことができた。山頂から15分ほどで下りきり、白嶽方面へまた登って、キャンプ場駐車場へ帰ってきた。

鋸嶽のみでは少々物足りないため、白嶽、中岳と一緒に登ったり、

5 鋸 嶽 (のこだけ)

鋸の歯のように続くピーク。付近の山や遺跡も楽しもう

DATA

上天草市姫戸町
標高344m
歩行時間：1時間30分（白嶽森林公園キャンプ場からの周回）



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会



山頂の様子

次郎丸嶽から足を延ばしたりする楽しみ方もあると思う。不動の滝、矢岳神社、巨石群などもあり、山と一緒に楽しみたい。

帰る前に矢岳神社と巨石群に寄る。矢岳神社は、山の神が2体（男女の神）祀られており、この泉の水で大病を治したという言い伝えがある。矢岳神社の奥に進むと、巨石による古代遺跡であるドルメン（天井



遺跡の案内看板

板を石柱が支えているもの）がある。案内板によると、姫戸町には古代に巨石文明があり、その文明により石積み of 古代遺跡が数多く残されているという。実際にドルメンを目にしたが、荘厳な雰囲気のある大きな岩であり、人の手によるものとは信じられないものであった。

この付近にはこのほかにもいくつかの遺跡があるとのことなので、時間を作りまた訪れたい。



古代遺跡ドルメン

★周辺情報

●小島公園キャンプ場

海に突き出た小島公園にあるキャンプ場で、バンガローやシャワー、テントも完備され、バーベキューセットのレンタルもある。岩場で磯遊びや釣りも楽しめる。

- ・住所…上天草市姫戸町姫浦
- ・電話…0969-5610777
- （松島総合センターアロマ）

である。

山頂からの眺めを一通り堪能し、湿地帯の方へ下る。15分ほどで湿地帯へ到着。天然記念物の「ヒモツル」、「ミズゴケ」の群生地とのこと。湿地帯にはそれらの貴重な動物を観察するため木道が渡してある。また、近くには、不動様が祀られた不動の滝があり、身清めの水行をしておはらいをすると、大病も治ると看板に書かれている。湿地帯から鋸嶽の方へ登り、キャンプ場を回る感じで歩く。多少上り下りを繰り返す。



山頂の様子

のキャンプ場へ到着した。1時間30分ほどの行程であった。海側の稜線は眺めがよく、歩きやすい。



山頂からの眺め

周囲には路岳や中岳、鋸嶽などがあり、足を延ばせば太郎丸嶽、次郎丸嶽まで行くことができる。九州自然歩道観海アルプスコースを代表する山である。帰りにキャンプ場の管理人の方と話をすることができたが、ミツバツジの咲く春がお勧めのことです。その頃にまた来たいと思つた。

★周辺情報

●白嶽森林公園キャンプ場

「自然との触れ合い」「自然を散

策すること」をコンセプトに創設・別荘感覚で利用できるログハウス風コテージや常設テント完備されている。周辺には遊歩道が整備された湿地帯が広がり、春・秋には様々な動物を見ることが出来る。

・住所…上天草市姫戸町姫浦539 512

・電話…0969-5813821
(白嶽森林公園キャンプ場管理棟)



湿地帯の木道

観海アルプス最高峰

7 念珠岳 (ねんじゅだけ)

念珠岳は、天草上島の八代海方面に南北にのびる観海アルプスの最高峰である。



途中の展望所から見た念珠岳

そこから歩いて出発。今は使用されていない旧トンネルを通り、大谷林道と呼ばれる舗装された



二弁当峠旧トンネル

山の名前の由来は定かではないが、古くから霊山としてあがめられている山である。

二弁当峠から龍ヶ岳方面への九州自然歩道の途中から、山頂へ登ることができ、

二弁当峠に駐車スペースがあり、

DATA

上天草市姫戸町・天草市倉岳町境
標高502m
歩行時間：4時間（二弁当峠から往復）



九州自然歩道入口

ここまでは舗装された車道であるため、山頂のみを指すのであれば、九州自然歩道入口

車道を行く。二弁当峠から九州自然歩道入口の看板まで、景色を眺めながら50分ほどかかった。ただ、



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

付近まで車で行ってもいいかもしれない。九州自然歩道は舗装のない自然道であり、多少のアップダウンがあるが、よく整備され、歩きやすい。所々は展望も開けており、休憩所も設けてあった。自然歩道入口から25分ほどで、「二弁当峠への近道」と書かれた看板のある分岐に出る。帰りに通ろうかとも思ったが、あまり整備されていないようであったため、結局通らなかった。その後10分ほどで「大谷越え」と

書かれた看板を見る。姫浦や二間戸からの道が行きあって大谷へ降りていくと書かれていたが、あまり使われていないように、そちらへ向



地蔵峠の坂道

かう道はよくわからなかった。その後、二間戸本郷への分岐の標識があり、20分ほどで、お地藏様がある地藏峠へたどり着く。お地藏様に手を合わせ、坂道を登ると、目の前に念珠岳が見える。ここまでくると、あと少しの思いから元気がでてきたが、ここから先は今までの遊歩道のような山道とは違い急な坂道となる。岩場につきながら登る場所

もあった。10分ほどで、念珠岳山頂への分岐の標識に着き、ここで九州自然歩道から分かれることとなる。分岐の標識が指す方へ入り、山頂への道を探すも、今までのような道らしきものはない。とにかく登ればいいのだろうと思ひ、急斜面を木につかまりながら必死に登っていくこと10分、無事山頂へ到着した。山頂



山頂からの眺め

は、登ってきた北側を除き、ほぼ開けている。遠くは対岸の八代の方まで見え、いい景色である。最後の急斜面がきつかった分、とても充実した気分となった。帰路も同じコースをたどり二弁当峠へ下りてきたが、権現山のふもとの下貫へ下りていくルートもあるようで、次回はそちらも試してみたい。



山頂の巨石から眼下を望むと、そこには絶景が…。

龍ヶ岳登山口バス停の道路を挟んだ反対側には、天草消防本部龍ヶ岳支部がある。気さくな消防署職員とあいさつを交わし、いざ登山開始。谷川沿いを歩いていくと5分足らずで、九州自然歩道のコース看板がある。右上の階段を上ると遊歩道が整

龍ヶ岳には、車道も整備され各方面から車で登ることもできる。歩いて登るコースとしては、観海アルプスコースの念珠岳方面からと、龍ヶ岳町高戸字脇浦の龍ヶ岳登山口バス停からのコースがあり、今回は後者のコースを紹介する。

龍ヶ岳の展望台を訪れた野口雨情は、「阿蘇や雲仙、霧島までも龍ヶ岳からひとながめ」とその絶景を詩にしたためている。

8 龍ヶ岳 (りゅうがたけ)

九州百名山、眼下に浮かぶ島々は思わず息をのむ絶景

DATA

上天草市龍ヶ岳町
標高469m
歩行時間：2時間30分（龍ヶ岳登山口から往復）



老杉の根元に山の神が祀られている

尾根を目指す。老杉から15分ほどで車道が現れる。これを横切ると山頂まで0.9kmの表示板がある。道

備されていて歩きやすい。小さな橋を2つ渡ると正面に多くの枝を張った老杉があり、根元に山の神が祀られている。ここから谷を離れ左上の



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会



本格的な天文台であるミュージイ天文台

をほぼ直進したのち、しばらく急登にあえぐと、山頂のバンガロー広場に到着。遊歩道を左に上り、寿ガ嶽神社を右に見て、レクリエーション広場を過ぎると、展望台のある龍ヶ岳山頂に達する。巨石の上に立ち眼下を望むと、樋之島や御所浦の島々が海に浮かぶ絶景が目に飛び込んでくる。帰りは往路を戻る。

★周辺情報

●ミュージイ天文台

口径50cmのカセグレン式反射型望遠鏡で、惑星はもちろん、星雲・星団までもが観測できる本格的な天文台。

・住所…上天草市龍ヶ岳町大道33

60-47

・電話…0969-63-0466

・休館日…毎週月曜日

・開館時間…13:00～21:30 天体観

測時間…18:00～21:30

・入館料…大人200円、小中学生

100円

・大型望遠鏡使用料…大人200

円、小中学生100円

・プラネタリウム使用料…大人200

円、小中学生100円

●龍ヶ岳山頂キャンプ場

龍ヶ岳山頂公園にあるキャンプ場

で、ロッジやバンガロー、テントサ

イトのほか、アスレチックやテニス

コートなどの設備が整備されてい

る。

・住所…上天草市龍ヶ岳町大道3360-9

・電話…0969-63-0466
(ミュージイ天文台)

・バンガロー、テント、シャワー、炊事用具

●観海アルプス

松島町高舞登山から龍ヶ岳を結ぶ

九州自然歩道は「観海アルプスコ

ース」として親しまれており、不知火

海を見下ろしながらハイキングを楽

しめ、毎年多くの登山愛好家が訪れ

ている。

●キララ祭「サンライズウオーク」

毎年4月29日の「昭和の日」に、

龍ヶ岳町大道港フェリー埠頭をスタ

ートし龍ヶ岳山頂まで歩くウオーキ

ングイベントで、片道7kmのコース

の途中にはお茶や果物等の接待もあ

り、楽しみながら歩くことができ

る。

鳥になった気分分で絶景が楽しめる、離島の島、御所浦島の名山

9 鳥 峠 (からすとうげ)

DATA

天草市御所浦町
標高442m
歩行時間：2時間20分（本郷港から往復）

鳥峠は、天草の離島、御所浦島の中心部にあり、倉岳町の棚底港から定期船や海上タクシーで海を渡る。（御所浦島へは、この他にも本渡港や大道港からの定期船もある。）午



船上から望む鳥峠



登山口は港からすぐ

本郷地区の住宅街を通り、10分程歩くとホロホロノキとシロダモノキがあり、その脇に山頂まで4キロの標識が立つ。そこから道端に生えるクヌギやネムノキ、ハゼノキなどを眺めながら進む。山頂まで3キロの標

前7時30分、倉岳町棚底港を出た船が御所浦島の本郷港に着く。すぐそばに鳥峠への案内板があり、目指す頂上の展望所までのルートを確認する。登山口（本郷港）から山頂まではすべて車道歩きである。港にいた地区のお年寄りに鳥峠の話の聞くと、「イノシシが出るから、1人で登山するなら注意しなさい」と助言をいただく。

識がある地点までは勾配がきつく少し辛かったが、午前8時に通過。タイルを使って「マリンビーナス」と表示された岩の間から、水が流れ落ちる場所です。山頂まで3キロの地点を過ぎると水場が2カ所しかなく、流れがないときのことを考え、タオルを水でぬらして首に当てると気持ちよく、気合が入る。

マメ科の低木であるリクサンボクを見て、頂上まで820メートルのアスレチック広場に午前8時30分に到着。「マムシ注意」の立看板があり、エノキやタブノキ、サザンカ、ツツジを見ながら進むと、頂上付近の草むらの中から、「ゴソッ」という大きな物音が聞こえ、姿は確認できなかったが「イノシシでは？」と感じた。午前8時40分、頂上



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

展望所に到着。万歩計の数字は5600であった。

展望所からは360度の大展望が広がる。ここからの眺めを「鳥になった気分だ」と表現した人がいたことを思い出す。ぜひ一度実際にこの山頂に立ち、見ていただきたい大パノラマである。残念ながらこの日は、天草最高峰の倉岳山頂は雲がかかり望めなかった。

握り飯を2個ほおぼり、午前9時、下山開始。直後にイノシシと遭遇。私の姿を見て、素早く草むらの中へ逃げ込んだ。午前9時5分に第2展望所。九州本土、水俣方面の眺望を目に焼き付ける。アスレチック広場横に元浦地区へ通じる農道があるが、草が生い茂っているので通らない方がよい、と作業中の方から話を聞く。

午前10時に登山口に無事到着。木々が車道を覆い、日陰が多く、真夏でも登りやすい山だと感じた。が、イノシシが出没するので



山頂展望所から望む
竹島、黒島、天草下島方面



山頂展望所から望む
御所浦港と牧島、天草上島

1人での登山は避けるべきである。また、水場の水も飲むべきでないと思った。

■交通アクセス 棚底港（倉岳町）と本郷港（御所浦町）間には定期船・シーガる3、フェリー御所浦あり。登山口（本郷港）から山頂までは、5・3キロの自動車道のみ。

■登山口 本郷港。すぐそばに鳥峠への登山道の案内板あり。

■難所 山頂まで4キロから3キロまでの区間が全体的に見て勾配がやや急。

★周辺情報

●御所浦おさい館

四方を海に囲まれた海の町ならではの海産物を中心とした土産館。四季折々の旬の魚と地元で取れた新鮮な農産物を安価で販売している。その他、恐竜グッズや手作り雑貨もお土産として好評。



御所浦おさい館

TEL・FAX 0969・67・1234

営業時間 8:30～18:00、定休日 1月1日。

●御所浦白亜紀資料館

「日本の地質百選」にも選ばれている御所浦では、全島をまるごと博物館とするため、野外見学地

などの整備を行っている。そのターミナルである御所浦白亜紀資料館には恐竜やアンモナイト、ほ乳類、貝など、多くの化石がある。

天草市御所浦町御所浦431055
開館時間 8:30～17:00（最終入館時間16:30）
休館日 月曜日（祝日は開館）と年末年始（12/29～1/3）

入館料 一般200円、高校生150円、小中学生100円、幼児無料。※団体は20人以上で2割引。

●天草御所浦ジオパーク
ジオパークとは大地の遺産を活用した自然公園のことで、天草御所浦ジオパークでは豊富な化石に出会うことができる。まずは、御所浦白亜紀資料館で情報を集めよう。お勧めのジオサイト（見学場所）は化石採取体験ができる「トリゴニア砂岩化石採取場」と、直径60cmのアンモナイトが地層に埋もれた状態で保護されている「アンモナイト館」。また、大小20個体ほどの大型2枚貝の化石が崖に張り付いた、前島の「イノセラムスの壁」も見。

TEL 0969・67・2325
FAX 0969・67・2359



化石採取体験



天草諸島の最高峰、島民のシンボリックな山

10 倉 岳 (くらたけ)

倉岳は、天草上島の南東部、八代海に面し、天草諸島の最高峰である。中腹には小ヶ倉観音、山頂には漁民と航

棚底地区振興会が整備した臨時駐車場から見た倉岳

利用の場合は、棚底地区振興会が棚底城跡付近の国道沿いに整備した駐車場を利用する。ここには休憩所やトイレ

登山は棚底バス停を基点とする。車

海の安全を祈願して祀られた倉岳神社があり、山頂からの眺めは雄大で、360度のパノラマが楽しめる。天草島民のシンボリックな山であり、地元天草高校の校歌にも次のとおり歌われている。「振放みれば倉岳の、高嶺を出づる天つ日の、下界の暗を照らす時、天には真理、地には道、人の心に「正大」の聖き光ぞ溢るなる」。

DATA

天草市倉岳町
標高682m
歩行時間：上り1時間40分（棚底バス停から往復）



な牛の瞳に癒さ

も整備されている。棚底バス停を出発し、倉岳小学校を左に見て進み、国道を渡る。車道の登山道を登り始めてすぐ右に曲がりしばらくすると、倉岳延命登山道の看板がある。国指定史跡である棚底城跡を通過し雑木林を進むと、右側に天草晩柑の畑があり、そこを上ると民家と牛舎があり見晴らし



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

急登の山道となる。林道に出てしばらくすると山頂まで560mの標識があるのでここから山頂に向かう。帰りはこの標識から水場の方に向かい遠望登山道を降る。標識からしばらく急登にあえぐと、倉岳神社と展望台がある倉岳山頂に達する。眼下には御所浦の島々が海に浮かぶ天草の山特有の絶景が



山道途中にある牛舎



山頂に祀られている倉岳神社

れながら小休止。舗装道を進み案内看板に従いに右に曲がると延命登山道の標識があり、ここから



パラグライダー基地からの眺望

山道を下山すると車道に出る。民家を過ぎて左折すると、牛舎があった往路に合流するので、ここから往路を戻す。



林道から山頂へ



車道から遠望(羽羅)登山道を左に下りる

楽しめる。帰りは先ほどの標識まで往路を戻り、水場を過ぎて車道から遠望登山道コースを下りる。下山開始から約30分でパラグライダー基地に到着。ここからの眺めも素晴らしい。右側の

- 住所…天草市倉岳町宮田1284-8
- 電話…0969-64-2405
- 休館日…第2水曜(祝日の場合は営業)
- 倉岳えびす祭り・えびすマラソン大会
毎年1月中旬に、倉岳大えびす像周辺で倉岳えびす祭りが開催される。これに合わせて5キロ、10キロ、2キロのファミリークラスがあるマラソン大会も開催され、天草島内外から約1000人の参加者がある。参加者には鯛のプレゼントもあり人気のイベントだ。



● 倉岳大えびす像・えびす茶屋
大理石で造られた高さ10mのえびす像。横に建つえびす茶屋には、倉岳特産のシモン製品などの物産やレストランもある。

- ★ 周辺情報
● 棚底の石垣群
棚底地区には、冬の強烈な北風(倉岳おろし)に対する防風垣として地元の豊富な石を利用して築かれた石垣群があり、この地域独特の集落景観を作り出している。

天草で2番目に高い山

11 老 嶽 (おいだけ)

天草で2番目に高い山で、なだらかで優しい山の形をしている。登山口は、有明町赤崎西バス停からと同



登り口の案内看板



案内看板が整備されている



やっと展望が開け、天草五橋と松島の島々が見える

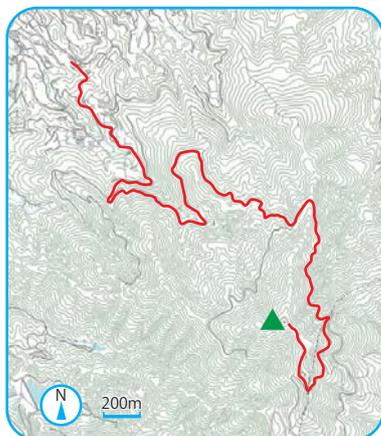
《赤崎西バス停から老嶽山頂まで約9kmの行程》
※駐車場は、バス停近くの店舗にお願いして空き地を

町上津浦郵便局からの2ルートがあり、道路も整備されていることから山頂まで車で行くこともできる。
また、登山口の近くには、四郎が浜ビーチ、タコのモニュメント、サントマリヤ館(資料館)などがあり、海水浴客や観光客で賑わっている。道の駅では、ジャンボタコ焼きや干しダコが人気。
☆アプローチ(赤崎西バス停から

のアクセス) 国道324号線を熊本方面に進み、天草市有明支所前を通り過ぎて、2km程先の赤崎西バス停を右折する。

DATA

天草市有明町・上天草市松島町境
標高590.5m
歩行時間：5時間30分(赤崎西バス停から往復)



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

貸してもらおう。

赤崎西バス停をスタートし、平地を直進する。登山道は舗装してあるが、周りは木々が生い茂り途中一か所を除き展望は利かない。登るのみであるため、気持ち的にもかなりきつい。30分ほどで「あと7・1km」の表示があり、その看板に従い左側の道路を道なりに進む。分岐のところに「あと6・0km」、「あと5・8km」、「あと5・4km」とそれぞれ看板が整備してあり分かりやすい。登山道の周囲には、カシ、タブ、シイ、クスの照葉樹が栄えている。最後の表示から1時間ほど歩く



伝説が残る老嶽神社



神社の道向かいに御神木と山頂までの道路がある



山頂広場からすぐの展望台



近くにはタコのモニュメントもある



展望台からの眺望

と、北東側が開け、上天草市松島の島嶼(とうじよ)と「天草五橋」のすばらしい景色が広がりほつとす

約20分で老嶽神社に到着。道開きの神として知られる猿田彦命が祀られ、ふもとの大岩が飛来したという伝説が残る。周辺は「緑地環境保全地域」に指定され、自然林が守られている。老嶽神社の道向かいには、御神木の老木と山頂までの道路がある。約10分で山頂広場に到着。駐車場は20台ほど止めることができ、トイレも整備されている。

広場の先を電波塔方面に進み、約

2分で山頂の展望台に到着する。展望台からは360度の絶景が楽しめる。北は湯島とその先に雲仙、北東に天草五橋、南は御所浦島、その手前に天草最高峰の倉岳を望む。西は天草下島の山々を見渡すことができる。

正月は、周辺や地元の方たちが、老嶽神社の参拝や初日の出を見に来るため、登山道が混雑するほど賑わっている。

天草の中心地を見下ろす

12 十万山 (じゅうまんやま)

☆アプローチ(アクセス)

天草瀬戸大橋(ループ橋)から国道266号線を牛深方面に約500m進



市街地から見た十万山

DATA

天草市本渡町・
亀場町境
標高239m
歩行時間：1時
間(亀川配水池
横登山口から往
復)

み、旧亀川中学校バス停を右折する。亀川運動広場の横を亀川配水池に向かって進む。駐車場は、運動公園の横を利用していただく。

《亀場町亀川の亀川配水池横登山口から九州自然遊歩道を進む行程》

十万山は、天草市の拠点である本渡地区の中心市街地を見渡せる絶好の景勝スポットである。

南側のルートである亀川グラウンド(旧亀川中学校跡地)をスタートし、広いが急傾斜になっている舗装道路を進み亀川配水池に向かう。

亀川配水池の門の手前を左折。フェンスづたいに進むと、いきなり鬱蒼(うつそう)とした自然林の中へ。九州自然歩道として整備された山道だが、少し勾配が急になっている。途



登山口の亀川配水池



九州自然遊歩道の案内標柱

中、猪の仕業と思われる土手を削った跡が続いていた。両側は、段々畑の跡が続くが、現在は、手入れをする人もなく雑木林になっている。10分程歩くと、「あと0・3km」の表示がある。



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会



整備された登山道



すぐに、あと0.3kmの表示



雑木林になった段々畑の跡



360度見渡せる展望台

そこから5分程で山頂付近の駐車場にたどり着くが、駐車場の寸前は特に急傾斜である。苔があり滑りやすいので、道が湿っているときなどは注意が必要だ。

駐車場の手前は分かれ道になってるので、そこを左側に進む。右側はトイレと休憩ができる東屋がある。

この分かれ道付近はクスやマツなどの林となっていたが、昨年（平成24年）に木々を伐採してあり、駐車場付近から市街地や雲仙方面の展望が楽しめるようになった。

駐車場下の分かれ道から、5分



有明海（東方面）を望む



環境省の九州自然歩道コース案内



電波塔横の林道



展望台から見た頂上
（右側手前に電波塔のアンテナ）

程度で山頂手前の展望台に到着。展望台からは360度眺望がきき、時計回りで、東に有明海や天草上島の倉岳、南側は御所浦島、西側には帽子岳や染岳、北側は長崎県の雲仙岳を望むことができる。

山頂は、展望台からもう少し奥にある。

電波塔の横の林道を進むことになるが、夏場は草が繁っており歩くのが困難で、途中から右側の登り道で岩が多く歩きにくい。間もなく頂上に到着するが、三角点がある頂上は見通しがきかない。頂上までの登山にこだわるより、展望台までをゴールとした方が良さそう。

また、このルートは、短時間で行けるが、傾斜がきついので、ゆっくりと歩きたい。

（下りは、同じ道を行くことになるが、下り始めの急坂は苔で滑りやすいので、注意が必要）。

縁結びの観音様と天然林の山

13 染 岳 (そめだけ)

「山寺の深きはやしの花ざかり雲よりひびく鐘かとぞきく」と、江戸後期の国学者で歌人の中島広足が詠んだ染岳。



市街地から見る染岳の山容

天草市本渡町の西南に横たわる山口市にあり、市街地から眺めると山容は三角形をなす。山の中腹部はスギ、ヒノキの人工林だが、その林を取り囲む地域はシイなどのカシ類やヤマモモなどの高木、モッコクやモチノキの亜高木、ハクサンボクやヤブツバキ・サカキ・ヒササキなどの低木、ツツブキやシダ類の草類からなり、林床にはコケ類も多く、典型的な天然林をなしている。また、こうした豊かな植物に育まれ、メジロやウグイス・モズ・キジバト・コゲラ・フクロウなどの鳥類、イタチ・イノシシなどの哺乳類も多く、熊本県内でも数少ない地域である。

染岳の中腹に建つ染岳観音院は天慶4年(941年)、弘法大師の法孫、妙覚法師の開基と伝えられる。現在は曹洞宗金慶寺が管掌している。本尊の観音像は元禄14年(1701年)作と伝えられる。

DATA

天草市本渡町・
戸宇土町境
標高380m
歩行時間：1時
間(青年の森キ
ャンプ場駐車場
から往復)



染岳観音院と天狗岩

下にある「青年の森キャンプ場」へ着く。このキャンプ場建設は、野外活動を活かす柱とする本渡岳友会が最初の奉

旧暦1月18日と6月18日に行われる染岳例祭には多くの参拝者が訪れる。

天草市役所から下田方面へ向かう県道24号を通り、JA本渡五和山口市支所を通り、案内板にしたがって左折する。町山を渡って参道を進むと観音院の直



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

仕活動として取り組んだもので、「青少年が気軽に憩い、学ぶ拠点づくり」の場として拓かれたものだ。以来、ここをベースに、小中学生や看護師を目指す看護学校生らに教育キャンプの指導をするなど、野外レクリエーション活動推進の一端を担ってきた。衛生上の理由などで現在は利用されず荒廃している。

キャンプ場そばの駐車場に車を置き、お寺への参道を通り石段を登ると、染岳観音院からの登山口に着く。

スギの大木に覆われた境内にある「天狗岩」に男女2人でお参りすると縁が結びれたり、懐妊するとされ、地元の人に信心されている。かつて、染岳観音院は天草5人衆の1人、天草氏の菩薩寺だったが、天草氏がキリスト教を信仰するようになって寺は一時荒廃した。その後の再建時に天狗が現れ、「観音を拝め」と言つて放り投げた岩がこの岩とされ、縁結びの霊験があるとされている。

無数の石仏の中に立つ弘法大師像の前を通ると、登山道が左右に分かれる。右に行くと奥の院経由と表示してあるが、雑木が生い茂り通れない。ちなみに、山頂へ通ずるこの道の途中には、キリシタ



染岳の山頂

ン大名として有名な小西行長の軍勢に焼き打ちされた奥の院跡がある。一定の間隔で祀つてある地藏菩薩に見守られながら登ると、札所順路に到達する。踏み固められた山道に落ち葉が積もつて滑りやすい。尾根の一本道には行く手を塞ぐように巨石があり、その脇に鎖が張られ急勾配になっている。3箇所ある鎖場を過ぎ、自然環境保全地区の立札を見て進むと、山頂の一角に着く。少し進むと山頂であるが、樹木に覆われており眺望は利かない。頂上は平たく広いので、木漏れ日の中で森林浴を楽しむのも良いかと思う。

染岳観音院の登山口から約30分。健康登山にはちょうど良い距離である。下山は往路を戻すことに

なるが、札所順路を通り、多くの地藏菩薩を拝顔するだいたい味を味わうのも一興。観音院境内のそばには立派な展望台があり、そこからの眺望は圧巻である。左手に天草空港、中央に雲仙普賢岳と湯島、右手に市街地と十萬山が見渡せる。

染岳讃歌【坊がつる讃歌より】

一、人みな花に 酔うときも

残雪恋て 山に入り
涙を流す 若人よ 雪解の水に春を知る

二、深山につばき 咲き誇り

ひじりにあつき 紅の
段原さまよう 若人よ 花の情を知るや君

三、染岳山の ふとこころに

学びし友は 今ここに
肩組み合おう 若人よ 青年の森に集い来て

四、四面山なる このすみか

夏はキャンプの 火を囲み
夜空を仰ぐ 若人よ 無我を悟るはこの時ぞ

五、菩薩の谷に 夜霧来て

せせらぎに寝る 山の宿
一夜を想う 若人よ 夢を抱きて明日を待つ

展望台から望む雲仙普賢岳



帽子をかぶったような形の山

14 帽子岳 (ぼうしだけ)

☆アプローチ(アクセス)

天草瀬戸大橋方面から国道266号線を牛深方面に約3km進み、シヨッピング



登山口近くから望む帽子岳



登山口の鳥居



買祿のある大木



表示が多く、ありがたい

センターイオン前を通り過ぎ、信号(食堂)を左折(入口の墓所手前に「帽子岳神社登山入口」の標柱あり)。細道を道なりに約1km進むと、帽子岳神社の鳥居が現れる。車は、登山道入口を少し上ったところに数台程置ける。
《帽子岳神社の鳥居から、参道を歩く3・5kmの行程》
登山道には、地元住民の手で標柱が立ててあり、コースサインとして目安が分

かるので、ペース配分に利用できる。
登山道入口(帽子岳神社の鳥居)を出発。100m程で砂利道になり、直ぐに土の山道になる。
この山一帯はスギやヒノキが植林して

DATA

天草市亀場町・
戸宇土町・楠浦
町境
標高483m
歩行時間：3時
間(帽子岳神社往
登山口から復)



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会



途中、東側が開け、十万山を見下ろすことができる

しは悪く、山道をひたすら歩く。10分程で、「山頂まで1500m」の標柱と「ピンの水↓」という看板がある。矢印の方向をみ

あり、見渡す限り深緑が広がっている。15分ほど歩くと「山頂まで3000m」の標柱がある。そこから5分くらい歩くと、幹周り3mあまりのカシの木の大木が左側の崖にそびえる。道脇には、大きなシダ類が点々と生えており、野鳥（カササギ、ウグイス）のさえずりを聞きながら進む。

10分程進むと「育林樹木」の看板があり、さらに5分程で「山頂まで2000m」の標柱がある。木立に遮られ見通

ると地蔵菩薩が祀つてあるが、「いわれ」などを書いたものがなく、看板の名前と地蔵の関係は分からなかった。



亀場方面展望後、すぐに稲荷大明神が現れる



鳥居をくぐったら山頂



5体の石仏の中央に帽子岳大権現側面には「ある山頂で春日大明神の尊象をみてここに祖を立てた」寛延2年巳年（1749年）とある

道なりに10分少々で「山頂まで1000m」の標柱があり、7分程度で展望（亀場方面）が利くところに出る。すぐ先には、稲荷大明神が祀つてあった。5分程度で「山頂まで4000m」の標柱があり、「帽子岳神社まで4000m」もその標柱に併記してある。

そこから、人が通るくらいの幅の細い山道になり、スギの木の間を進む。5分程で「山頂まで3000m」の標柱があり、岩の急勾配の上に50cm程積もった枯れ葉が、進路を妨げるが、10分で山頂に出る。

山頂近くは自然林で、カシやシイなどの広葉樹が広がる。山頂手前には、風でなぎ倒されたものと見られる大木が根つきから横たわっていた。木の鳥居をくぐったらすぐに山頂に着。展望はないが、5体の石仏を祀つてあり、その中央に「帽子岳大権現」が鎮座していた。



山頂の標柱は502mとあるが、国土地理院の地図では483m

15 行人岳 (ぎょうにんだけ)

インターネットの地図でもその名前を
確認することができない知る人ぞ知る山
「行人岳」。「行人様」伝説が残る地域



向かって左側の山が行人岳

住民の信仰の山だ。

県道44号線を天草空港方面に進み、途中芥北広域農道方面の標識に従い左折し県道44号線をそのまま道なりに5分程進む。右手に本町小学校、左手に天草の礎を築いた鈴木重成公を祀った「鈴木神社」を通過し、道路が一車線となった直後、小さな橋がある。そこを渡り最初の三差路を左折すると、最初の曲がり角に行人岳の表示板があり、ここから山頂まで案内が始まる。それに従い進み2番目の行人岳表示板で止まると、正面に見える山が行人岳だ。

この麓付近は天草市本町福岡地区で手前には見事な田園風景が広がり、奥には端麗な行人岳がそびえ立ち、まずはここで車を降り景色を楽しむことをお勧めする。

満足りく登山コースとしてはこの付近から歩いてと言いたところだが、駐車スペースが無く付近住人に駐車許可を取らなければならない。手軽に登山をと思

DATA

天草市本町
標高470m
歩行時間：1時間
(車道から往復)



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

われる方々も多いと思われるので、ここでは登山距離が若干短くなるが、山中の車道沿いの空きスペースに駐車して登るコースを紹介する。

「行人岳へ」の案内板に従い車道を進むと、途中からみかん畑横を山道へ入る案内板があり、そこを少し通過したところで分岐地点の三差路がある。その道沿いに数台駐車ができるので、ここで車を置いて車道を数分歩いて戻る。先ほどのみかん畑付近にある案内板に従い山道へ入る。

山道はけもの道のような道だが、進行方向ははっきりしており迷うことはない。また、道の両側は森林で覆われ山頂



行者の水

されたコンクリート柵に蛇口の付いた山水があり、手や顔を流すことができる。

山道は、山肌を蛇行して山頂へ向かう車道をまっすぐに突っ切るようなコースとなっていて、二度ほど車道とぶつかるが、すぐ山道へ入る案内板が立っており迷うことなく山頂を目指して歩くことができる。

車を停めたところから小休憩を含め約30分程度山道を歩くと、辺りの木々が無くなり急に開け、山頂付近にたどり着く。

進路は急な斜面になり大きな岩が姿を見せる。その岩が「行者の飛び

付近までは景色は望めないが、これぞ山道といった登山を味わうことができない。

途中、

「行者の水」と表示

石」で、行者は一つ歯の下駄を履いてこの石から島原半島の雲仙岳へ飛ばれた、との伝説が案内板に記されている。確かに、岩の上から山頂を背に左手を眺めると島原半島が望め、伝説の信ぴょう性を物語っている。

行者の飛び石から数分で山頂へ到達。

山頂には「行人岳山頂四〇八m」の標柱や石碑、祠があり、「福岡行忍嶽略縁起」と記された一枚板の扁額が掛けられており、行人伝説が福岡青壮年会の手で奉納されている。その内容については、実際に行者の飛び石とセットでじかに見ていただいた方が良いと思われるのでここでは割愛させていただきます。また、扁額の下には一枚歯の下駄も奉納されており、さらに行人伝説を目の当たりにすることが



行者の飛び石



扁額



一枚歯の下駄

できる。扁額の文面や祠の様子、祭りも毎年催されていることから、この山が地域住民にとって信仰の山であることが感じとれる。

山頂からは、本町から本渡地区への町並みが一望でき、左手には島原半島を眺めることができる。飛石と山頂の間の斜面に腰をおろし本町の景色を眺めるのも良いだろう。

下山は来た山道に戻ることとなるが、山頂付近の急斜面に気をつければ特に危険な箇所もなく約20分程度で車に戻るることができる。行き帰り一時間程度で手軽に登山ができるため、ぜひ直接足を運んでいただき、山道登山を楽しむと共に、行人伝説を肌で感じてほしい。

本町にはこの山の近くに「矢筈岳」

(別頁で紹介)

があり、いずれも手軽に登山できる。冒頭に紹介した「鈴木神社」の参拝と「行人岳・矢筈岳登山」をコースで楽しむことをお勧めする。

眺望絶景かつ秘境めいた山

16 矢筈岳 (やはすだけ)

天草市本町と天草郡苓北町の境に位置し、眺望絶景かつ静かで秘境めいた山である。県道44号線を天草空港方面に進み、途中



中央少し右側の山が矢筈岳



本町の眺望

北側・南側の林道、東側から車道を歩くコースがある。登山としては南側の林道を歩くコースがベストだが整備されていないため、ここでは平床公民館起点の東側車道コースを紹介する。平床

苅北広域農道方面の標識に従い左折し県道44号線をそのまま道なりに5分程進む。右手に本町小学校、左手に天草の礎を築いた鈴木重成公を祀った「鈴木神社」を通過し、そのまま道なりに10分程進む。左手に平床公民館があり、この本町平床地区から山に登ることとなる。山頂付近には駐車スペースもあり車で登頂することもできる。

DATA

天草市本町・天草郡苓北町境
標高476m
歩行時間：1時間40分（平床往公民館から復）



舗装道の登山道

公民館から車道を数分歩いて行くと山に向かう道と分かれる三差路がある。豊かな田園地帯の中を山に向かって進んでいる車道の方に右折する。正面奥に矢筈岳を望みそのまま車道を登って行く。基本的にはこの車道に沿って山に向かって歩き続ければ山頂に至ることができる。途中、山側に登る近道らしき脇道が複数あるが、ほとんどが民家への入り道となつているた



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

め、近道を探しながら歩くより、車道を素直に着実に歩くことが山頂へ一番の近道といえる。

車道を延々と歩くことになるが、風に揺れる木々のざわめき、道の脇に流れる山水のせせらぎ、虫や鳥の心地よい声、様々な自然の音が舗装道を歩いていることを忘れさせてくれる。今回の取材登山は真夏の登山だったが、その自然音だけで体感温度的には涼しく感じるくらいであった。

歩き始めてから約40分、「矢筈岳観音様入口」の表示板に出会う。そこから参道になっているのか、道脇にはサクラやツバキ、アジサイなどが見られ、それぞれの花の季節に訪れても楽しめそうな道となっている。観音様入口から5分程度で山頂下の広場に到着、ここにはトイレもあり最後のひと登り前に小休止ができる。また、この広場が駐車スペースとなるため、ここで合流すれば、車で登山



矢筈子宝陰陽

する人とも一緒に登頂することができる。広場からはコンクリートで舗装された道の急な坂を登ることとなる。ここで一息つきたいという絶妙なポイントにベンチがあり目前は本町を見下ろせる絶景ポイント。ここですっきりとした息を整えさらに坂を登る。坂の先には「矢筈子宝陰陽」という社があり、写真ではお見せできない程御利益がありそうなお神体が祀つてあるのでぜひ直接参拝していただきたい。

山頂には石の柱で出来ている珍しい立派な社が建っており、矢筈岳観音様が祀つてあり、このほか木造の鳥居や石碑、石段などがあり、山頂スペースはかなり神秘的な雰囲気醸し出している。矢筈岳観音様は、大雨洪水などによる不作での貧困、それに加え疫病なども流行した時代に観音に救いを求め17



石柱の社



秘境めいた雰囲気

49年に開創され、以来250年その霊域が守られて来ているとある。地域人にとつて古くから信仰が深い山のようなのである。

社の裏手の一段登った高台に山頂の標柱が建っており、標高467mの記載がなされている。そこからは天草下島の北側を見下ろすことができ、富岡半島の独特の形や富岡の砂嘴（さし）と呼ばれる奇跡の景観も情景模型のように見ることができ。

下山は来た道を帰ることとなり、登り1時間、下り40分程度の登山となる。

この本ではふらつと登山をイメージし、山頂の静かで秘境めいた雰囲気味わうコースとして紹介したが、矢筈岳登山を本格的に楽しむには例年12月に地域で開催される「矢筈岳さわやか登山」に参加することをお勧めする。山道や林道を含む全長9km程度のコースで紅葉も楽しめる。途中豚汁やゼンマイなどの振る舞いやスタンプラリー、スタート・ゴール地点となる平床農村広場では地域産物の物販もある。私自身も参加したことがあるが、就学前の息子でも完歩でき、非常に楽しめた思い出がある。

ぜひこの時期に都合を合わせ「さわやか登山」に参加し、矢筈岳を味わっていただきたい。

1時間程度の行程である。舗装された林道を歩くコースとなる。道には丁寧な案内表示がされているので、道に迷うことはない。車で登山口に設けられた駐車場まで行くこともできる。林道は、普通車がやっと1台通れる程度の狭い道路なので注意が必要である。駐車場には、10台程は止めることができる。登山口右側は牧場になっており、黒牛が2頭、悠々と草を食べていた。さつき来た県道286号線をそのまま下って行くと2カ所ほど案内看板があるが、どれも杉林の中の林道を登って来るコースであり、最終的には登山口に設けられた駐車場まで進むコースとなっている。

天の川は登山道看板のすぐ左にある。天の川では、年の数だけ豆を供えお参りすれば、歯痛が直るといふ伝説があるという。

登山口には、木のアーチがあり、ここから先は舗装が途切れ、植林された杉林の中の道を歩いていくことになる。頂上まで1km、登山道は幅2m程の広さで、杉林の中を蛇行しながら上っている。山



登山道



山頂 (ツツジ)



山頂

の所有者の好意により登山道として利用しているものなので、杉林の中に立ち入ったり、植物を採集するようなことは慎みたい。杉林の中を巡るように入ると、景色はあまり良くない。山の澄んだ空気で森林浴を楽しみたい。

登山口から20分足らずで視界が開け頂上が見えてくる。山頂は、見晴らしがきくように木々が伐採され、北面にはツツジが植えられている。これは、平成16年から整備されたもので、ツツジは4,500本植えられ、5月には見頃となりツツジ祭りが行われているそうである。また、11月には「天竺・天



山頂から角山を望む

移すと富岡半島から長崎が見える。さすがに高い。下島最高峰という気分を楽しむことができる。

の川西遊記登山」も実施されている。山頂からの眺望は素晴らしく、四方の山々を望むことができる。山々を記した方位盤が置かれているので、山の名前や方角が良く分かる。眼下には天草町福連木の集落が、また角山から続く山々がシルエットとなっていて続いている。北に目を

鬼池地区民の拠り所

18 天神山 (てんじんやま)

天神山は、五和町鬼池地区を見守るがごとく、鬼池地区中心部にそびえたつ小高い山である。標高は低いが、とても見



登山口から



参道

鬼池港を過ぎて車で2〜3分行くとレストラン海鮮蔵があり、そのすぐ先に天神山の登山口の看板がある。ここから左に折れて山に入っ

晴らしがいい山である。

本渡から峇北町を目指し、天草セントラル病院を過ぎると、右手に海を隔てて島原半島が見えてくる。鬼池から口之津まではフェリーで結ばれている。この海峡は魚類が豊富でイルカが多数住みつき、一年中イルカウォッチングで賑わっている。

DATA

天草市五和町
標高172m
歩行時間：1時間20分（レストラン海鮮蔵から往復）



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

ていくことになる。頂上には天満宮が祀られていることから、天神山参道入口と表示されている。頂上まで1・5km、40分くらいの行程である。道路は上の駐車場まで舗装されており、車でも行くことができる。家族連れでもゆっくり登ることがができるライトなコースである。道沿いには、五和町名産のビワの木が植えられている。しばらく登って行くと雑木林に変わり、道端には桜の木が植えられる。30分程歩くと、参道入口の看板があり、右折する。参道は今来た道より広

く、勾配が少しきつくなる。ここから、10分程歩くと駐車場に到着する。駐車場は舗装されており、5台程度駐車スペースがある。ここから、頂上まではわずか1分、ちよつと急な参道をゆつくり登ることになる。



山頂

ていた。天満宮は菅原道真公を祀つたもので学問の神様として有名であるが、この天神様は、雷神信仰と結び付き、雨乞いの社としても信仰され、戦時中は、出征者の武運長久の祈願所にもなった所である。現在は、鬼池地区を静かに見下ろし、地区民の抛り所・守り神として、大切にされている。毎年3月には、鬼池港を発着点として、天神山まで潮風

頂上に

は、天満宮

が鎮座し、

社の前がち

よつとした

広場になつ

ていて、休

憩用のイス

も整備され

ウォーキングが開催されている。また、7月の第4日曜日には祭りが行われ、子ども相撲やカラオケ大会等で賑わっている。



山頂から雲仙を望む

山頂から

の眺望はず

ばらしかつ

た。この日

は天気によ

く、空も海

も真つ青で

あった。目

の前には、

海を隔てて島原半島の大パノラマが見える。雲仙から右側へ、鬼池港、セントラル病院と続き、遠くには湯島が見え、宇土半島がシルエットになって続いている。左側に目を移すと、通詞島の風力発電が見え、長崎の島影が見える。背後には、天草の山々が広がっている。帰りは、旧参道を下つてみることにした。元々は、宮津地区から登る道があったそうだが、今回確認できたのは、頂上



旧参道

積み歩きにくかった。

天神山は見晴らしがいいので、国道からも良く見える。帰りは、鬼池港やセントラル病院の道際に車を止め、山の様子を確認しながら帰路についた。

から下の舗

装道までの

0・5kmの

み、10分程

の行程であ

った。あま

り登る人も

いないため

か、枯葉が



鬼池から見た天神山

徳川幕府直轄の歴史、今に残る天然林

19 角山 (かどやま)

天草下島のほぼ中央に位置する角山。この山から北へ連なる帯山、薄木山の西側斜面に広がる約260ha



天草市天草町福連木牧地区から望む角山

の山林を「官山」と呼ぶ。この山に自生する「ハナガガシ」が最高の「やりの柄」として徳川幕府に認められ、幕府直轄の山となり、こう呼ばれるようになった。現在は国有林となつている。角山の呼称は、官山の角にある山の意味といわれる。登山路は幾つかあるが、これまでと違ったコースを登ろうと、子守唄で知られる福連木地区へ車を走らせた。県道24号線を下田へ向かって走ると、福連木地区に入る。物産館前のT字路を左折。子守唄公園を過ぎ、「角山登山口」と書かれた小さな標識に従って進むと、「角山登山道略図」と記された手作りの案内板がある。ここで下車。案内をお願いした瀬川一孝さん(70)と合流す

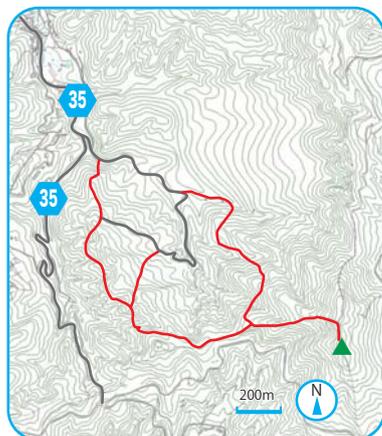
DATA

天草市宮地岳町・河浦町境
標高525m
歩行時間：2時間20分(角山登山口から往復)



徳川幕府が最高の「やりの柄」と賞賛したハナガガシ

る。瀬川さんは、角山をもつとPRしようとして「角山官山ウォーキング」を平成18年から仲間と始めた人だ。午前9時登山開始。目の前を流れる牧川を渡る。この溪流の水は昭和



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会



クイズ形式の樹木の説明板

60年8月「福連木官山の水」の名称で「くまもと名水100選」に選定されている。植林されたヒノキ林の中を歩く。15分程で東屋に出くわす。下車した場所からここまでは車道が整備されており、車でも行ける。3台は駐車可。山頂まで2・3キロの標識があつた。丸太で土留めが施され、砂利が敷かれた遊歩道を行く。道沿いの樹木に名札が付けてある。トキワガ、カクレミノ、イスノキ、ユズリ、カゴノキなど、初めて聞く名の木々が林立する。尾根道を登り下りしながら進む。この辺りには、ウラジロガシなどの照葉樹の林が見られるなど、自然度の高い天然林が残されており、角山から北側へ連なる尾根とその西側斜面約23haが県の環境保全地域に指定

されている。時折、木漏れ日が差し込む。聞こえるのは、落ち葉を踏みしめる音と、樹木を揺らす風の音と木々のざわめきだけ。「木々に覆われた山道が好きな人には良いコースです」と瀬川さん。「下山道」の文字と左下向きの「矢印」が記された標識に出くわす。ここから急登すること約20分で平坦な稜線に出て、わずかで宮地岳町側からの登山道と合流する。ここを南へ直進すると数分



山頂から登山ルートを眺める。
中央右端が福連木地区

で頂上に至る。出発から1時間30分あまり。山頂一帯は、福連木里づくり振興会のメンバーの手で伐採されており、北側の一部を除く約340度が見渡せる。が、この日は晴天なのに遠景は白く霞んでいた。『角山頂上 五二五・九M』と記された標柱の下には『一等三角点』の標石がある。三角点は測量の基準となる重要なもので、設置年は明治25年と説明板にあった。登って来た福連木地区方面を望む。尾根筋は広葉樹に覆われ、新緑や薄緑、浅緑、若緑などの淡い緑の布地をはぎ合わせた帯が、スギやヒノキの深緑に包まれた山々を縫うように、山頂付近まで続いていた。帰りは、落ち葉に足をとられそうな急勾配の山道を下り、50分足らずで出発点に到着。今度は『角山官山ウォーキング』に参加し、早春の角山に触れたい、と思った。



山頂に鎮座する普賢菩薩、「隠し田」石垣跡も

20 行人岳 (普賢岳) (ぎょうゆにんだけ)

「行人岳のことならあの人」。宮地岳地区振興会長の龍石昭好さん(76)の紹介で、行人岳山麓の中岳

中岳地区から見る行人岳(中央左)と普賢岳(中央右)

上る窯がある。農家民宿の体験メニューに、「かわのほとり体験窯」の看板がかかる小屋と、煙突から煙が立ち上る窯がある。農家民宿の体験メニューに、

松川さん宅横から中岳川沿いに延びる舗装された林道を走る。すぐに、「かわのほとり体験窯」の看板がかかる小屋と、煙突から煙が立ち上る窯がある。農家民宿の体験メニューに、

地区で農家民宿を営む、松川莞爾さん(69歳)に案内をお願いした。

好天の8月中旬、国道266号を

宮地岳町へ車を走らせた。中岳地区

に入り、「普賢の郷」と刻まれた農

地基盤整備事業の完成記念碑を過ぎ

ると、右手に、台形状のなだらかな

山容をした行人岳が見えてくる。日

隠バス停そばの松川さん宅脇に車を

止める。「頂上まで車でも行ける

が、最後は歩きましょう」と松川さ

ん。四輪駆動の軽トラックに同乗さ

せてもらい、山頂直下を目指す。

松川さん宅横から中岳川沿いに延

びる舗装された林道を走る。すぐ

に、「かわのほとり体験窯」の看板

がかかる小屋と、煙突から煙が立ち

上る窯がある。農家民宿の体験メニ

ューの一つにと、平成24年5月から

松川さんが始めた炭焼き窯だ。

約1.5km走ると、「頂上まで3

km」の標識がスギの幹に結ばれてい

た。この辺から頂上付近まで、昭和

20年代に植林されたスギ林が続くと

いう。二つ目のヘアピンカーブの先

に、麓の28戸に給水する水道施設

と、災害時の観測データを無線で県

庁へ送る水防メーター観測設備があ

る。その先に、銀色に光る金属板で

覆われた水道施設の水源地2箇所が林

道沿いの左斜面にある。さらに行く



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

とY字路があり、「普賢岳」のかすれた文字と矢印が記された木製の小さな標識に従い右折する。「頂上まで1km」の標識を過ぎて下車。斜面を下ると、苔むした石垣が現れた。高さ約4m、横幅約25m。その昔、年貢の徴収を免れるため密かに耕作された「隠し田」の石垣跡で、その上には約1000m²の山田があったという。



「隠し田」の石垣跡と松川さん

出発して45分。山頂まで500mの場所に駐車し、ここから歩く。左側に車道があるが、目の前の雑木林に足を踏み入れる。踏み後が分かりにくい急勾配の山道を登る。約10分で鳥居の立つ広場にでる。鳥居の先が山頂で、風化から守ろうとコンクリートブロックで築かれた囲いの中に普賢菩薩が祀れている。宮地岳村第4代庄屋、中西忠左右衛門が隠居後に四国から奉賛してこの地に祀ったという。

山頂からの眺めはもやではっきりしなかったが、北側には帽子岳、東には竜洞山が白く霞んで見えた。南側には頭岳と小頭岳が目前にあった。

さらに、石板の展望図の脇に立つ行人岳への標識に従って進む。岩角や木の枝につかまりながらわずかに下ると、その先が行人岳の頂上だ。4畳ほどの広さで、シイなどの樹木に覆われ眺望はきかない。元禄5年(1692)、天草に遠島になった



地区民を見守る普賢菩薩

を建立したという。その「行人岳石碑」が、樹間から漏れた夏の日差しを受けて、ひっそりとたたずんでいた。

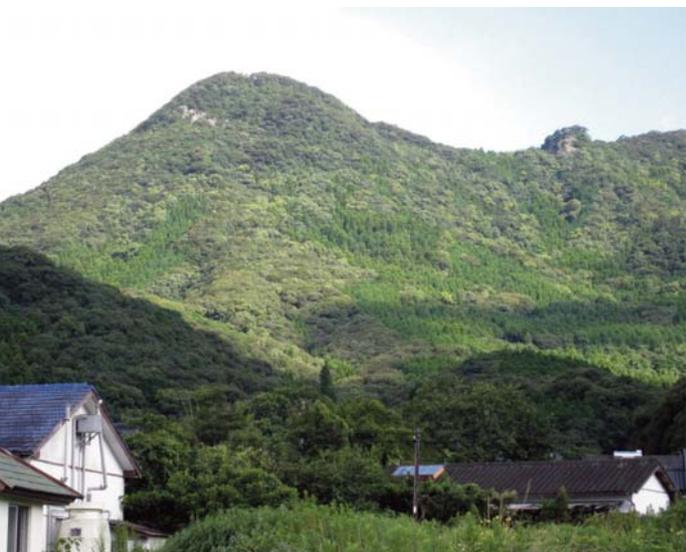
なお、地図には行人岳(普賢岳)と記載されているが、登ってみると普賢菩薩が祀られている普賢岳の方が標高はわずかに高い。これを松川さんは、日本地図を作成した伊能忠敬が測量のために天草を訪れた折に、測量隊が山の名称を誤記したのではないかと推理する。

修行僧138人のうちの1人がこの頂で修業し、ここで生涯を閉じた。その僧侶を供養し、この地に石碑

新合地区のシンボル、御来光登山も

21 頭岳 (がしらだけ)

天草市内の国道266号を車で南下、河浦町新合地区に入ると右手に頭岳が鎮座する。元日の御来光登山



頭岳と、その右の突起が小頭岳

や、毎年4月18日に山頂で催される観音様の祭りには相撲大会もあり、その昔はにぎわっていたという。が、今でも地区民はこの山を見て育つ。地域のシンボルであり、多くの帰省者がこの山を目にすると「生まれ故郷に帰ってきた」と懐かしがるのは、そのせいだろう。

「頭岳登山道入口」の看板が脇に立つ、津留神社の立派な鳥居のそばに車を止め、標高465mの頭岳と、その右手に小さく突起する小頭岳へ向かう。鳥居から1kmあまりのT字路に立つ「頭岳登山口」の標識に従い左折。道端で作業中の人に話を聞くと「登山口までは車でも行けるが、所々で道が荒れており、この先の無人の民家か、記念碑のところ

DATA

天草市河浦町
標高465m
歩行時間：2時間50分（津留神社鳥居から往復）



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

で車は止めたほうがいい」という。舗装道路を30分あまり行くと「頭岳森林管理道記念碑」に出くわす。碑文には「この管理道路は平成6年から3年をかけ、河浦町森林組合の手で開通。8合目まで車での通行が可能となり、登山も容易になった」とあった。

鳥居から歩いて50分、管理道路の終点に着く。ここから始まる登山道の脇に短く切ったコンクリートの土管が据えられ、その中に竹のつえ20本が無造作に入れてある。地元の方

の心遣いだろうと思ひ、その中の一本にお世話になった。

雑木やスギ、竹などが周囲に林立する、つづら折りの急な山道を登る。登り一辺倒で汗が吹き出る。一息入りたいと考えながら登っている、前方の木々の間に空らしきものが見え、尾根が近いことが分かる。間もなく、稜線の鞍部に着く。北側に「小頭岳」、南側に「頭岳」と記



小頭岳山頂から東を望む。遠くには獅子島も

された年季の入った木製の標柱が立つ。そのそばに一体の延命地蔵が祀られている。頭岳を目指す。山道を覆



稜線に祀られている延命地蔵

う枯葉に足をとられながら登る。出発点から1時間20分で着いた。頂は南北に細長い平坦地で、観音様をはじめ4体が祀られている。それらに混じって、「頭岳」「脇水博士之書」と刻まれた石碑があった。地質学者で、史跡名勝や天然記念物を調査した脇水鉄五郎が昭和8年に来島した折りに、青年が「かご」で担ぎ上げた記念とされる。脇水博士は「天草は海岸風景がすばらしいし、頂からの見晴らしも優れている箇所が至る所にある」と述べたという。鞍部に戻り、尾根筋を北へ進み小頭岳に向かう。やぶをかき分けると険しい道が現れ、木の枝につかまり



鳥居越しに見る頭岳と小頭岳

ながら急登すること5分ほどで山頂に着く。東側の眺望は頭岳と同様、眼下に新合地区の家々や田畑が広がり、目を上げると不知火海に浮かぶ島々が影絵のように見えた。帰りも往路を下り、登山道から約50分で津留神社の鳥居に。振り返ると、統合された新合小学校の校歌にうたわれた「くもわきのぼる がしただけ」が、鳥居の中にあつた。

山と海、両方楽しいパラダイス

22 竜洞山 (りゅうとうざん)

天草下島東海岸の南部、天草市新和町に位置し、雲仙天草国立公園に指定されている竜洞山(標高317

m)車で行くことができる。

山頂からは、獅子島(鹿児島県)

や御所浦島、天草富士と呼ばれる産島など不知火海に浮かぶ島々や入江の様子など、天草の海と山の美しさが一望できる絶景ポイントである。天気の良い日にハイキングやドライブで山頂まで登り、展望

所周辺で島々を往来する船を眺めながらお弁当を食べるなど、のんびり過ごすのも楽しい。

山頂周辺には、「みどりの村キャンプ場」があり、キャンプ場やテニスコート、売店、動物の飼育小屋などがある。キャンプ施設としてはバンガ

DATA

天草市新和町
標高317m
本渡から車で約30分。県道26号線を南下。「竜洞山みどりの村」(TEL:0969-46-2437)への案内看板あり



新和町中田より竜洞山を望む



子ども会のキャンプファイヤー

ロー、テント、オートキャンプ場などがあり、少人数から大人数まで対応できる宿泊施設が充実している。また、炭焼き窯、ピザ焼き窯などの体験、手ぶらで行ってもバーベキューができるなど盛りだくさん。さらに、大多尾方面に下りると、天草唯一の焼酎醸造会社である天草酒造、そ



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

の前には「立海水浴場」（小じんま
りとしている）があり、海水浴もで
きる。さらに、この周辺の海岸では
春〜秋にかけてミズイカも釣れると
いう。キャンプ場に泊まり、山と海
の両方ともたつぶり時間を掛けて楽
しんでもらいたい山である。某深夜
番組ふうに言うところ「しかしまあこ
はまさにパラダイスやな!」（by小
枝）

さて、この山の名前についている
「竜」と「洞」には、興味深い伝説
がある。

今から千二百年ほど前、この山の
頂上付近に見事な家が建っていた。
その家には一人の美しい女性が住ん



展望所

でおり、あまりの美しき
に村人たちはこの女性を
恐れていた。ある年、村
に疫病が流行し、村人は
困っていた。それを知つ
た女性は、唐の国から持
つて来たという薬草を村
人に与え、疫病に苦しむ
人々を救った。それ以来
村人たちはこの女性を尊

敬するようになった。女性は「楊貴
妃」と名乗り、唐の国に乱が起き、
難を逃れ、海をさまよつてたどりつ
いたそうだ。そして、唐の国から皇
帝の迎えの使者が来るのを待つてい
るといふ。ある夏の日、空がにわか
に薄暗くなり、雷鳴がとどろいたか
と思うと、巨大な竜が山頂に舞い上
がった。竜とともに女性の姿も消え
ていた。ただ、女性が使っていた匂
い袋が一つ残っていたという。
それから、女性の家があつた跡地
は「楊貴妃」と呼ばれるようにな



伝説の竜の住む洞穴

り、今でも山頂付近
の字名は楊貴妃とな
っている。

また、竜が舞い上
がったこの山には竜
が住んでいたといふ
洞穴があり、これが
「竜洞山」の名前の
由来となっている。
この穴は今も残つて

おり、展望所手前から下つたところ
で見ることが出来る。さらに、この
穴は天草上島と下島を隔てる瀬戸海
峡、天草島原の乱で天草四郎軍が立
てこもつた島原の原城へと通じてい
るらしい。

ところで、この山では、例年子ど
も会のキャンプがあり、我々本渡岳
友会もキャンプファイヤーでお手伝
いするなど、おなじみの山でもあ
る。もつと言えば、天草で知らない
人はいない、皆に愛されている山で
ある。



天草富士とも呼ばれ、海を渡る祭礼で有名

23 産島 (うぶしま)

天草下島東海岸の県道26号線を車で南下、河浦町宮野河内へ入ると左手の八代海に浮かぶ無人島・産島が

上平港から望む産島

9月7日の好天の中、標高2622mの産島を目指した。事前に渡し船に連絡しておいたので上平港の棧橋では船頭の上口(ウワグチ)さんが待ち受けておられた。産島キャンプ

見えてくる。天草富士とも称され地元民から親しまれているが、折しも本家本元の富士山が2013年6月に世界遺産に登録されたことにより、さらに、その人気にあやかりそうだ。
もう一つ有名なのが「産島八幡宮大祭」ご神体に乗せた船が大漁旗をなびかせて海上を華やかに行列する、いわゆる「海を渡る祭礼」だが、これはインターネットに詳細が載っているの、ここでは省略したい。

DATA

天草市河浦町
262m
(渡し船) 専用
電話 0969-78-0670 上口さん
料金：大人 往復
1,050円、子供
往復525円



「海を渡る祭礼」が行われる産島八幡宮

場の管理人もされているそう。乗船の前に大まかな登山道の状況を伺い、潮流が早い八幡の瀬戸を渡ってわずか2〜3分で産島に着する。上陸すると中央に登山道があり、その左手に稲荷



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

様、産湯の池、八幡宮の順に並び、右手にはキャンプ場の管理棟が建っている。参拝を済ませ、早速、登山開始。

船頭さんに



池の産湯の誕生の天皇神応

聞いたが8合目辺りまで林道が整備されており、最初の方はコンクリート舗装されている。道脇には数台の錆びれた軽トラがあつたが、なぜ無人島に軽トラ？と疑問に思ったが、その訳が後で分かった。雑木林に覆われたり、陽射しが当たったりする林道を交互に進んでいると所々にコンテナが枯れ枝、枯れ葉に埋まっている。またしばらく進むと、石垣で築かれた段々畑が現れ、手入れがされていないミカン畑があり、さらには道脇には朽ち果てた倉庫が横たわっていた。帰りの船頭さんの話

によると、昭和30年代初期までは産島にも人が住んでおり、ミカン栽培が以前から盛んで最近まで行われており林道もそのために造つたと聞き、往時の面影を偲ばせた。3合目付近でコンクリート舗装は終わり、左手の沢のせせらぎの音を心地よく聞きながら道なりに歩いていると、突然、前方で「ザザツ」という物音がした。驚いて見ると30m程先に、ウリ坊（猪の子）が2頭、横向きになつてこちらを見つめている。初めて人間を見るような

顔つきだ。また、しばらく進むと今度は親猪が挨拶に出てきてくれた。野生の猪に出会うとはラッキーである。6合目辺りからスギとヒノキの林に変わり、樹齢数十年から百年を超えると思われる大きな木立の中で、木漏



島影を望むの島と長島より頂山

れ日を受けながら歩くと、まさに心地よい森林浴である。8合目位で林道は終わり、ここまで所要約60分。これから最後の急な山道を登る。しばらくして稜線に出て、約40mで三角点のある山頂に到着。出発してから1時間20分で着いた。

山頂では、木々の間から「女岳」「帽子岳」、反対側には「長島」、遠くに「甑島」の島影等々の眺望が楽しめる。また、山頂から先に約30m下つたところに、大きな岩に「愛

宕さま」が祀つてあり、廻り込むと「南無阿弥陀仏」等の文字が彫られている。

帰りも往路を下り、山頂から50分で渡り船が待つ港に着く。

産島には渡し船が必須である。昼食と散策を考へるなら、滞在時間は3時間以上が必要であろう。



西平橋公園より荒尾岳を望む

24 荒尾岳 (あらおだけ)

2万本のヤブツバキが群生する絶景ポイント

荒尾岳へは、天草町下田から国道389号線を南下。高浜地区を通り過ぎ、大江トンネル手前を右へ入っ

ていく。

天草西海岸に位置する荒尾岳342m。ここに万治3年(1660年)遠見番所が設けられた。主な仕事は南蛮船の来航監視や密貿易の取締り、漂着した外国船の処理などである。怪しい異国船を発見した番所はのろしを上げ、苓北町富岡を経由して、長崎・島原藩に知らせるとともに、船の様子などを走り下つて庄屋(上田家)へ知らせなくてはならなかった。

昔の人が息を切らせて走り下つたその山を、車で悠々と登っていく。標識に従って進んでいくと、まもなく山頂展望所に到着する。駐車場から展望所までは徒歩1分。子どもから高齢者まで誰でも行くことができ

DATA

天草市天草町
標高342m
歩行時間：1時間30分(千の通りバス停から往復)



山頂展望所にて

が、やはり自分には甘い筆者である。クレーのきいた車で山頂到着。今の時代に生まれて本当に良かったと思う。

る山である。山登り愛好者としては、「これで良いのか、自然の中の山道を歩いてこそその山登りだろう」という思いがチラッと浮かんだ



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会



絶景の天草灘

遠見番所跡には、展望所が設けられている。天草灘の男性的な風景の中に、岩礁や断崖が絵のように連なっており、海の藍と空の青のコントラストがとても美しい。眼下の天草灘を望むと目に飛び込んでくるのが、雄々しくたたずむ十数個の尖塔状の岩礁「大ヶ瀬」である。その南側には「小ヶ瀬」があり、釣りのポ

イントとして人気が高い。冬にはこの大ヶ瀬・小ヶ瀬に夕陽が沈む。その美しさは筆舌に尽くし難いが、その美しさを写真におさめる技術は持ち合わせていないので、ぜひ皆さんには足を運んで実際にご覧いただきたい。

「山には自分の足で登ってなんぼ！」という方に朗報。なんと、荒尾岳西側の西平地区に山頂へと続く遊歩道がある。入り口は、山頂と「西平椿公園」を結んだ中間ほどのところ。こちらは道中展望がきかないが、ヤブツバキのトンネルを樂しむことができる。木階段・手すり等所々に設けられており、道に迷うこととはないだろう。ただし、利用者がほとんどいないため、腰をかかめて椿のトンネルをくぐらなければならぬ箇所が多々ある。我こそは！と思われる方はぜひ、鉈か鎌持参で挑戦して欲しい（その際の枝打ちは通行可能になる程度の必要最小限でお



遊歩道入口

願いします）。遊歩道入り口には車一台分の駐車スペースが。そこから先の墓地敷地内に冒険へと続く道がある。

25 古江岳 (ふるえだけ)

古江岳は国道266号線を牛深方面に行き河浦町白木河内の先の古江地区に登山口があります。



国道266号線古江地区より望む古江岳

小さい案内版があるので確認して左折すると狭い車道沿いに大神宮の案内の標柱があり頂上まで5・4キロと書いてあります。しばらく山道を行くと鳥居が見えてきます。

鳥居の下を通り徒歩登山道があったようですが、町の古老に聞くと今は草や木で登られないとの事、鳥居の横に車を置くスペースがあるので、そこから車道登山をします。車道を行くと整備されておらずで行かれる場合スリップしやすい箇所が多々見受けられました。最初は田圃や畑がありますが段々上の方に登ると放棄地が多くなつてきます。

以前は田畑の耕作の為山道があり、その続きで古江岳の山頂までの

DATA

天草市河浦町
標高342m
歩行時間：2時間 (鳥居から往復)



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会

道があつたのでしよう。車道を登ると途中で林道が見えてきます。そこを左に300mほど行くと大神宮の案内版があります。左に天草黒毛和牛の放牧地を見ながら登ると1時間50分位で山頂に到着します。

山頂は椎など原生林に覆われていて展望はききません。社務所横まで下りてくると北東から東方面に上天草の鳥影や鹿児島島が見えます。

この古江大神宮の森は平成3年11



大神宮拝殿

月11日にふるさと熊本の樹木に登録されています。その中に、神宮があり地区の古老に聞くと、天草にあった朝日炭鉱の経営者だった田中栄蔵氏が資金や資材を提供し、地区の大工を宮大工の所に修行にやり建てられたそうです。

又、資材の一部には遠く北海道の蝦夷檜を用いられているそうです。

天草の他の神社には見られない作りになっており一見の価値があります。

又、いつのころからか縁結びの神とも言われ、参拝に訪れ縁がありますようにと祈る姿も見られるそうです。以前は年に2回の大祭が行なわれていたそうですが、現在では1月2日に神主さんと地元の人が参られ



大神宮本殿



ふるさと熊本の樹木に指定

るだけになったそうです。

山頂のすぐ下には大神宮発祥の地と言われている天下りの石もあります。

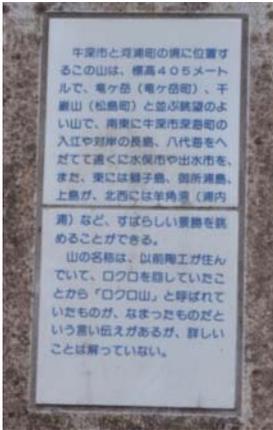
帰りは特に注意が必要です。右に行くと林道を15キロ程下り県道宮野河内、新合線に合流します。左に行き古江に下りずそのまま直進すると路木ダムの方に行きますので、来た道を帰るのが無難でしょう。

26 六郎次山 (ろくろうじやま)

六郎次山へは国道266号線を牛深方面に走り河浦町路木をすぎ山間を走ると六郎次と深海方面への標識



深海町から見た六郎次山、中央の鉄塔の手前の山



六郎次山はミカンの一大生産地として盛んに栽培が行なわれていたが、高齢化、立地条件の悪さや水不足によって廃園が増えてきました。今は、施設園芸でデコポンの栽培が行なわれていますし、牛深は都会でも人気が出てきた河内晩柑の生産においても天草の中心地ですが、

があります。そこからS字カーブを走り、しばらくすると左手に登山口が見えてきます。

DATA

天草市牛深町
標高405m
歩行時間：3時間（登山口から往復）



比較的
に広く
勾配も
緩やか
です。
途中、
公道を
下りか
けた所
に頂上

需要に生産が追い付かない面もあります。
天草の山道はどこも狭いここは



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会



行の標識があるの
ので注
意して下
さい。

そこから
半周する
と頂上の
駐車場に
到着し、
車は10
台くらい
止

められます。そこからすぐ頂上で、
眼下には深海湾と町並みが見えま
す。右の方には浅海、牛深町、左の
方には産島が見えます。

下島東海岸線は久玉町から河浦
町、新和町、本渡へと県道26号線が
走っています。道は少しづつ改良さ
れて来ましたが、まだ狭く曲がりく
ねったところがあります。

六郎次山は、別名下島大観山と呼
ばれています。下島で一番高い山か
らは鹿児島県長島、獅子島や御所
浦、遠くは芦北まで望め、その眺望

が雄大な事から昭和10年6月7日に
国の名勝地に指定されました。山頂
一帯には、財団より寄付された桜を
地元の有志の方が植樹され、春には
見事な桜並木が、人々の目と心を癒
してくれます。

また、六郎次山は鹿児島出水のツ
ルの北帰行の通過する山としても有
名で、日本野鳥の会のメンバーはシ
ーズンになると山頂で観察して別れ
を惜しんでいます。

下山する時の注意点は公道に出る
時右折しますと、深海の町に下りま

すので左
折して国
道266
号線に出
て下さ
い。



頂上付近の東屋



六郎次山より深海の町と港



眼下に広がる東シナ海、遠見岳見張番所跡も

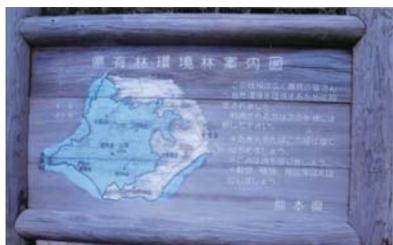
27 遠見岳 (とおみだけ)

遠見岳へは国道266号線を牛深方面に行くと、牛深高校が見えてきますので高校の前を通り過ぎ、突き

あたりを右折します。牛深クリーンセンターの横を右折すると魚貫町に入り、トンネルを抜け、しばらく行くと魚貫崎レストハウスの案内標識がありますので左折します。

道なりに行くと魚貫崎簡易郵便局があり、その前を通り田圃が続く途中に遠見岳入口の標柱がありますので、左折し

権現山から見た遠見岳



遠見岳一帯の案内図

ますと、終点の駐車場まで1分くらいで到着します。車道の終点には10台位駐車出来る広場があ

り、そこから少し登ると東屋があり、東シナ海が遠望出来ます。

東屋から登山道を500m程登ると15分くらいで頂上に着きます。

その昔、天草初代の代官鈴木重成は天草海防の要所とする幕府の意向を受け、寛永18年(1641)に天草の中でも外洋に面してる富岡、大江とここ魚貫崎の3か所に遠見番所を設けました。ここ遠見岳の見張り番所2名の遠見番が詰めて役職には地役人があたりました。

主な職務は南蛮船の来航監視や密

DATA

天草市魚貫町
標高223m
歩行時間：40分(東屋から往復)



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会



遠見岳見張番所跡は天草市文化財に指定

貿易の取り締まり、漂着した外国船の処理など異常があつた際には見張番所に併設された烽火場で烽火を上げて、大江の荒尾岳、富岡代官所と知らせました。

番所跡は雑草に覆われ、烽火を上げたであろう石垣の跡も見えにくくなつており、手入れが必要です。頂上からの眺望は木々が邪魔をしてきかないが、木の間から藍より青い海



シャリンバイ



烽火場跡



魚貫刈の唄の石碑

原やNHKの宮本武蔵のロケ地の茂串海岸が見渡せます。

遠見岳には海岸から直接登られるルートがあり、愛好者からは人気があります。20年程前に海岸沿いの歩道が台風で壊され、今では登る事が出来ません。



久玉小学校から望む権現山

28 権現山 (ごんげんやま)

牛深では六郎次山に次いで第2番目の高さ

権現山の登山口は国道266号線の久玉小学校そばの無量寺からと魚貫町側からの2ルートがあります。

地元の人によると、以前の徒歩登山ルートは藪で登る事が出来ないのです、今では車道登山のみになります。久玉町、魚貫町からの登山道はコンクリート舗装が頂上近くの駐車場まで続いています。両ルートともサイドと頭上から木々や雑草が覆い茂りワゴン車や乗用車では無理です。軽や四輪駆動車でないと急カーブ、急勾配それに落ち葉でスリップして登る事が困難です。

途中、車道沿いには東京牛深会の皆様によって桜が植えてあり、4月頃には山頂一帯が満開の桜見物で賑やかになるそうです。

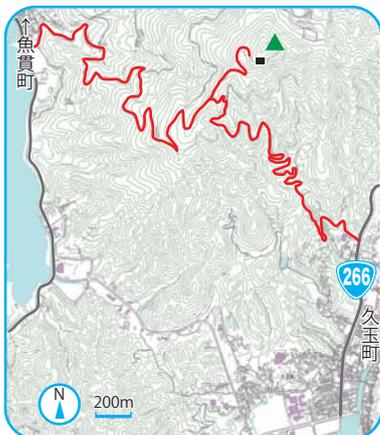
登山の途中は木が茂り見晴らしがききませんが、両ルートとも、ところどころから久玉湾や東シナ海、遠見岳が見えます。

DATA

天草市久玉町・魚貫町境
標高401m
歩行時間：2時間（久玉町側から往復）



魚貫登山口ルートの中から見る魚貫町と遠見岳・天草灘



copyright: 熊本県・市町村電子自治体共同運営協議会



権現山展望台から見た久玉湾

権現山は、帆船で漁を行っていた時代、天気が悪くて方向を見失う事が多々あり、霧で方向がわからなくなった時、権現山の方向に皓々と光るものが見えたため一心に舟を漕ぐと久玉浦へとたどり着いて助かったと言う伝説が残されています。

その後、祭祀が行なわれ海で方向に迷った時、この久玉権現様に祈願するとたちまち進路が分かったといえます。

今では市の指定文化財になっており猿田彦大神（猿田毘古命）が祀られており、航海の安全と無病息災、五穀豊穡の神とされています。



頂上に行く丸太の階段

す。その横を歩くと権現山の夫婦椎が見えてきます。樹齢300年以上と推定されています。牛深では、舟材として椎の木や檜の木は、大事に育てられました。歴史があります。



久玉権現

夫婦椎の横を行くと、久玉権現様そして頂上に行く急勾配の

頂上へは丸太

の階段が整備されておられ、すぐに展望台があり、久玉の町や湾が見え、右の方には牛深町、遠見山が見えます。

登山道がありますが、落ち葉や崩れた箇所があり注意が必要です。頂上からの景色を眺める事は出来ませんが、神社、祠がある山頂の鎮守の森はそれなりに趣きがあります。看板には遊歩道があり、展望台の所へ帰って来ると書いてありますが、遊歩道を通る事が出来なくて自らルート開拓して頂上一周して帰って来ました。



魚貫権現

し、その巨岩を利用して祠があり久玉と魚貫側に祀つてあります。最近の天草の山はどこも整備がしてなく登山道、山頂、展望台、便所など草や木々に覆われていて残念で仕方ありません。

山頂の魚貫町側には魚貫権現神社があります。一帯は火成岩の巨岩がありそれぞれ表情を見せてくれる

あとがき

この小冊子は、本渡岳友会創立50周年記念事業の一つとして編集・発行したものです。

本渡岳友会は昭和38年11月、8人の青年の手により産声をあげ、「友情」「秩序」「奉仕」を信条とし、「野外活動の普及」を活動の柱と位置づけ、これまで教育キャンプの指導や登山などを続けてまいりました。

本年、創立50周年という大きな節目の年を迎えるにあたり、記念事業をどうするか、という課題に直面しました。が、期せずして複数の会員から「天草の山の情報を発信しよう」との声が上がりました。発案の背景にはいろいろな考えがありましたが、共通していたのは、「眼下に美しい景色が広がる天草の山々の魅力」を、一人でも多くの人に伝えたい」という思いでした。

そこで、島内にある数多くの山々

の中から28座を選び、会員3〜4人を班員とするグループを8班編成し、各班が3〜4の山を担当して取材・執筆にあたることにしました。

出来栄えはご覧のとおりです。筆力の無さは言うまでもなく、文章量の多少、文体の違いなど、気に障られることが多いと思いますが、これらの点についてはお許しをいただきましたと思います。ただ、いずれの文章も、実際に山を訪ね、地元の方々から話を伺って記述しましたので、それぞれの山の現在の姿を多少なりともお伝えできるものと確信しています。

取材と執筆を終わって、次のような感想が会員の中から聞こえてきました。「海と島々がパノラマのように眼前に広がる山頂からの眺望は、やはり絶景であり、癒される。ただし、草が繁茂している時季もあるので、登るシーズンは考えてほしい。また、イノシシにも注意が必要。さ

らに、多島海の美しい景色が見渡せる島内の山々は、かけがえのない天草の宝、地域資源であるので、会員はもとより、島民の方々にもご協力を願って後世に引き継いでいかなければならない」といったものでした。自然保護については、ぜひとも、多くの方々のお力添えをお願いします。

最後に、取材に同行してご案内いただいた方々は言うに及ばず、作業の手を休め、見ず知らずの私たちに快く山にまつわるお話などをしていただいた多くの方々、それに、本冊子の発行にあたり献身的にお世話をいただきましたワタナベデザイン、渡辺裕幸・信子ご夫妻に心からお礼を申し上げます。

なお、担当の山と取材・執筆者は次ページのとおりです。

平成25年11月

本渡岳友会会長 松下 晃市

島の頂山歩道執筆者（担当表）

◎が班長

柴尾山・千巖山・太郎丸嶽・次郎丸嶽

◎野嶋義澄、原田真二、江口奈美

鋸嶽・白嶽・念珠岳

◎楠本千秋、松元正治、松下晃市、山川里子

龍ヶ岳・烏峠・倉岳

◎花谷雄治、渡邊英人、永野勝弘、井上幸子

老嶽・十万山・染岳・帽子岳

◎寺下高志、田中博幸、田中夏紀

行人岳・矢筈岳・天竺・天神山

◎倉田浩一、松本雅隆、嶺陽子

角山・行人岳（普賢岳）・頭岳

◎嶺力、木村英樹、野嶋雅文、梶原慶子

竜洞山・産島・荒尾岳

◎磨田峰男、宮本諭、中里洋子

古江岳・六郎次山・遠見岳・権現山

◎森田雅博、永利隆昭、岩崎昌昭、川崎茂雄

島の頂 山歩道

さんほみち

〔 28 座から見渡す天草の絶景 〕

発行 日 平成二十五年十一月二十日

編集・発行 本渡岳友会創立50周年

記念事業実行委員会

本渡岳友会

〒八六三―〇〇〇六

熊本県天草市本町下河内六九六一

制作・印刷

ワタナベデザイン

熊本県天草市本渡町広瀬二二九ノ七

電話（〇九六九）二二一一〇八九